

TOTO水環境基金

2017年度 助成団体活動報告

2017年4月～2018年3月(第12回)



TOTO水環境基金

TOTOグループは、水まわりを中心とした、豊かで快適な生活文化を創造することで、社会の発展に貢献する企業を目指しています。持続可能な世界の実現のためには、TOTOグループの果たすべき役割である節水技術の追求とともに、地域の事情に精通し、地域を支える団体の活動が欠かせません。

そこで、TOTOグループは2005年度に「TOTO水環境基金」を設立し、水にかかわる環境活動に継続して取り組む団体への支援を続けています。企業による一時的な物資や資金の支援だけでなく、団体を支援することで持続的な発展を目指しています。

想いを同じくするパートナーを探して

助成団体の選考にあたっては、TOTOグループ社員から選出された選考委員が応募団体の方と面談をし、「水環境にかかわる地域課題を地域の方々と共に解決したい」という想いを伝えています。そのうえで、応募団体の活動の詳細やどのような想いを持って活動されているのかを確認し、「地域に根差した活動となりえるか」「一過性の活動ではなく、継続性があるか」という点を中心に選考を行い、想いを同じくする団体と活動をスタートします。

地域に根差した継続的な活動を支援

途上国では、水不足や劣悪な衛生環境により、数多くの人びとが命を落としています。また、環境保全、貧困、教育、ジェンダーの平等など様々な課題も引き起こしています。このような途上国の抱える課題解決には、一時的な水まわり器具などの物資や資金などの提供だけでなく、器具の維持管理や仕組みを根付かせるために、継続的に現地を支え、衛生的な生活環境の重要性を伝えていく活動が欠かせません。TOTO水環境基金は、このような活動を行う団体を支援することで、持続的な発展を目指しています。

地域の一員として共に課題解決に取り組む

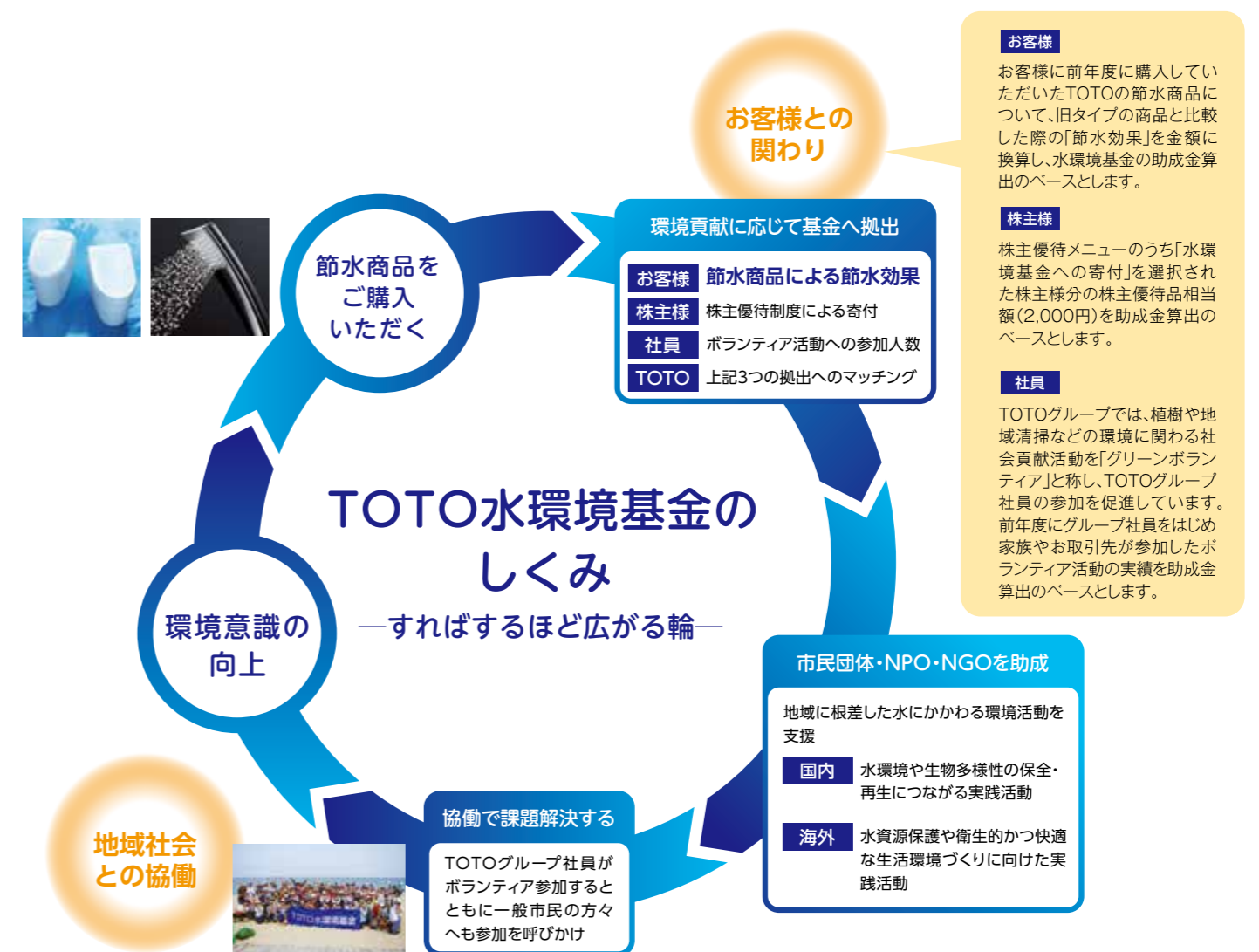
TOTOグループでは、地球環境に貢献するボランティア活動を「グリーンボランティア」と称し、TOTOグループ社員の参加を促しています。TOTO水環境基金助成団体の活動にもTOTOグループ社員がボランティアとして積極的に参加するとともに、一般市民の方々へも参加を呼びかけています。助成期間が終わっても情報交換やボランティア参加などを通じ、助成団体をはじめとする地域の皆様との交流は続いており、年々活動の輪が広がっています。

また、助成団体のネットワークづくりや活動のステップアップ支援を目的として、「助成団体交流会」を開催しています。助成団体の方々やTOTOグループ社員から選出されるボランティア推進委員が一堂に会して、助成団体による事例発表、懇親会等、交流を図ります。

こうした活動は、TOTOグループ社員の社会貢献・地域共生に対する意識の醸成と社会貢献活動へ参画する“きっかけ”となっており、このプログラムを通じた地域とのコンタクトの積み重ねが、TOTOグループと地域社会との共生につながっていくと考えています。

みんなの想いを反映して

助成金額は、「お客様」に購入いただいた節水商品による節水効果、「株主様」の株主優待制度による寄付、「TOTOグループ社員」によるボランティア活動の参加人数を基に算出し、さらにTOTOがマッチングすることで決定しています。ステークホルダーの皆様の環境貢献へのかかわりが増すほど、「TOTO水環境基金」の助成金が増えていく仕組みです。



助成団体一覧(国内)

No	活動地	団体名	2005年～2020年														
			2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
北海道・東北																	
1	北海道	ばんばんばんぶきん	●	●	●												
2	北海道	NPO法人 山のない北村の輝き															
3	北海道	NPO法人 森をたてようネットワーク															
4	青森	小川原湖自然楽校															
5	青森	NPO法人 白神山地を守る会															
6	岩手	NPO法人 わが流域環境ネット															
7	岩手	NPO法人 紫波みらい研究所(代表団体)															
8	宮城	梅田川せせらぎ緑道を考える会															
9	宮城	NPO法人 川崎町の資源をいかす会															
10	宮城	NPO法人 社の都仙台ナショナルトラスト															
11	宮城	カワラバン															
12	宮城	宮城県淡水魚類研究会															
13	宮城	NPO法人 リアスの森応援隊															
14	山形	鮭川村自然保護委員会															
関東																	
15	茨城	NPO法人 WaterDoors															
16	茨城	御前山ダム環境センター															
17	茨城	NPO 環～WA															
18	栃木	わたらせ未来基金															
19	群馬	NPO法人 緑の家学校															
20	群馬	さなざわ里山だんだんの会															
21	埼玉	NPO法人 比企自然学校															
22	千葉	NPO法人 ふるさと生きがいづくり															
23	千葉	NPO法人 印旛沼広域環境研究会															
24	千葉	NPO法人 印旛野菜いかだの会															
25	千葉	八千代市ほたるの里づくり実行委員会															
26	千葉	NPO法人 森のライフスタイル研究所															
27	千葉	NPO法人 しろい環境塾															
28	千葉	ほたる野を守るNORAの会															
29	東京	ぜんかんれん															
30	東京	白子川源流・水辺の会															
31	東京	DEXTE-K															
32	東京	NPO法人 荒川クリーンエイド・フォーラム															
33	神奈川	浜っ子トラストチーム															
34	神奈川	NPO法人 ヨコハマ倉造空間															
35	神奈川	ほのぼのピーチ茅ヶ崎															
36	神奈川	NPO法人 おさかなポストの会															
37	神奈川	NPO法人 海の森・山の森事務局															
38	神奈川	一般社団法人サーフライダー・ファウンデーションジャパン															
39	神奈川	NPO法人 小網代野外活動調整会議															
中部																	
40	新潟	NPO法人 ねっとわーく福島潟															

No	活動地	団体名	2005年～2020年														
			2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
中部																	
41	新潟	高根フロンティアクラブ															
42	富山	福光ふるさと森を再生する会															
43	富山	金山里山の会															
44	石川	金沢エコライフ事業実行委員会															
45	福井	アマモサポーターズ															
46	山梨	NPO法人 えがおつなげて															
47	山梨	NPO法人 ゼロファクトリー															
48	長野	ステップアップゼミ															
49	岐阜	NPO法人 MY															
50	岐阜	大富山を愛する会															
51	静岡	NPO法人 浜松NPOネットワークセンター															
52	静岡	NPO法人 はるの山の楽校															
53	愛知	ネイチャークラブ東海															
54	愛知	虹のとびら															
近畿																	
55	三重	一般社団法人 海っ子の森															
56	滋賀	NPO法人 旅するおさかなサポーター															
57	滋賀	NPO法人 夢工房															
58	滋賀	清水川湧遊会															
59	滋賀	たかしま有機農法研究会															
60	滋賀	神山区いい顔づくり委員会															
61	滋賀	NPO法人 家棟川流域観光船															
62	京都	水源の里連絡協議会															
63	京都	NPO法人 プロジェクト保津川															
64	京都	川と海つながり共創プロジェクト															
65	京都	ほたる祭改善プロジェクト委員会															
66	大阪	NPO法人 花だんごネットワーク															
67	大阪	NPO法人 ふくてっく															
68	大阪	NPO法人 環境教育技術振興会															
69	兵庫	「幹池」を考える会															
70	兵庫	武庫川の治水を考える連絡協議会															
71	兵庫	松蔭高等学校 Blue Earth Project															
72	兵庫	高砂海浜公園海辺の保全集いの会															
73	兵庫	NPO法人 アンビシャスコーポレーション															
74	奈良	景観ボランティア明日香															
75	和歌山	NPO法人 ゴミンゴ・ゴミ拾いネットワーク															
中国・四国																	
76	鳥取	山王さん周辺活性化協議会															
77	鳥根	NPO法人 飯梨川再生ネット															
78	広島	酒屋地区自治会連合会															
79	広島	大羽谷川流域の環境を考える会															
80	広島	NPO法人 もりメイト倶楽部Hiroshima															

No	活動地	団体名	2005年～2020年														
			2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
中国・四国																	
81	広島	京橋川かわいあい あしがるクラブ															
82	徳島	NPO法人 川塾															
83	愛媛	宮前川クリーンネット															
84	愛媛	エコ・ライフ夢幻村															
85	愛媛	久保・鮎川源流を想う会															
86	高知	㈱ 西土佐環境・文化センター 四万十楽舎															
87	高知	こうち森林救援隊															
88	高知	しまんと黒尊むら															
89	高知	大正中津川「やまびこ会」															
90	高知	橘若者会															
九州																	
91	福岡	中谷地区まちづくり協議会															
92	福岡	NPO法人 つやざき千軒いきいき夢の会															
93	福岡	アクアリング委員会															
94	福岡	火山山山保全交流会															
95	福岡	NPO法人 遠賀川流域住民の会															
96	福岡	香月・黒川 ほたるを守る会															
97	福岡	東朽網校区まちづくり協議会															
98	福岡	NPO法人 改革プロジェクト															
99	福岡	横代校区まちづくり協議会															
100	福岡	津古ふるさと会															
101	福岡	筈尾川水辺の楽校運営協議会															
102	熊本	やまんとろ♥かわんたろの会															
103	熊本	どんぐりプラットホーム															
104	熊本	次世代のためにがんばる会															
105	大分	佐伯広域森林組合															
106	大分	NPO法人 水辺に遊ぶ会															
107	大分	冷川のホタルと親しむ会															
108	大分	関の江海岸の自然を守る会															
109	大分	NPO法人 おおいた環境保全フォーラム															
110	宮崎	MFV会															
111	宮崎	高千穂森の会															
112	宮崎	一般社団法人 日本スキムボード協会															
113	宮崎	NPO法人 みやざき技術士の会															
114	鹿児島	郡山マグニチュード21															
115	沖縄	宜野湾の美ら海を考える会															
116	沖縄	おきなわ環境塾															
117	沖縄	NPO法人 珊瑚舎スコレ															

助成団体一覧(海外)

No	活動地	団体名	2005年～2020年												
			2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017

第12回 助成団体一覧

No.	団体名	プロジェクト名	主な活動地域	ページ
1	特定非営利活動法人白神山地を守る会	白神山地の最大の恵である良質な水を保全・活用する活動	青森県西津軽郡	8
2	カワラパン	まちの水辺のまなびの場づくりプロジェクト	宮城県仙台市	9
3	宮城県淡水魚類研究会	仙台 市民とともに醸成する水文化復権の流れ	宮城県仙台市	10
4	NPO 環〜WA	1300年の里山の歴史を未来へ	茨城県茨城町	11
5	わたらせ未来基金	渡良瀬川が繋ぐ上・下流域環境保全再生プロジェクト	栃木県日光市 足尾、渡良瀬遊水地	12
6	八千代市ほたるの里づくり実行委員会	生物多様性の基地として〜目指そう ホタルの自生〜	千葉県八千代市	13
7	特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所	千葉県九十九里海岸防災林の再生 〜海岸林の機能強化をめざして	千葉県山武市	14
8	白子川源流・水辺の会	白子川源流域の湧水量と水質の回復による水辺環境の再生	東京都練馬区	15
9	DEXTE-K	西なぎさ発:東京里海エイド	東京都江戸川区	16
10	NPO法人 海の森・山の森事務局	独自メディアで発信!大岡川クリーンアップ大作戦	神奈川県横浜市	17
11	金山里山の会	水と緑の輝く里山プロジェクト	富山県射水市	18
12	大富山を愛する会	大富山湿地の涵養と保護及び美佐野街道ふれあいの場所整備	岐阜県土岐市	19
13	一般社団法人 海っ子の森	市民による海のビオトープづくり活動とドローン活用藻場観察	三重県北牟婁郡、尾鷲市	20
14	NPO法人 家棟川流域観光船	家棟川・童子川・中ノ池川にピワマスを戻すプロジェクト	滋賀県野洲市	21
15	川と海つながり共創プロジェクト	京都・保津川から世界の海を美しく 〜内陸部から取り組む海ごみ発生抑制プロジェクト	京都府亀岡市	22
16	NPO法人 アンビシャスコーポレーション	「外堀川クリーン作戦」〜まちづくりコミュニティ清掃〜	兵庫県姫路市	23
17	特定非営利活動法人 ゴミゴ・ゴミ拾いネットワーク	島ゴミプロジェクト〜離島に流れ着く漂着ゴミ拾い〜	和歌山県友ヶ島、家島 兵庫県	24
18	特定非営利活動法人 川塾	かっぱの川そうじ	徳島県阿波市	25
19	東朽網校区まちづくり協議会	水と緑の美化プロジェクト	福岡県北九州市	26
20	NPO法人 改革プロジェクト	Yの字作戦2017	福岡県宗像市	27
21	津古ふるさと会	津古の住環境に溶け込む宝珠川の清流再生と維持	福岡県小郡市	28
22	特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会	生きもの、子ども、自然が元氣な中津干潟みらいづくり活動	大分県中津市	29
23	関の江海岸の自然を守る会	関の江海岸の自然を守る会	大分県別府市	30
24	NPO法人 おおいた環境保全フォーラム	海浜生態系再生プロジェクト 〜命をつなぐ海岸の復活をめざして〜	大分県佐伯市	31
25	一般社団法人 日本スキムボード協会	ecoプロジェクト宮崎〜アカウミガメとの共存〜	宮崎県宮崎市	32
26	特定非営利活動法人 みやぎき技術士の会	山崎川自然リカバリープロジェクト	宮崎県宮崎市	33
27	特定非営利活動法人 イカオ・アコ	水源の森を守り、学校・地域に水を届けよう	フィリピン 西ネグロス州シライ市、 ギバラオン村シバト地区	34
28	公益財団法人 プラン・インターナショナル・ジャパン	ベトナムにおける衛生習慣改善プロジェクト	ベトナム コントゥム省コンブロン県	35
29	World Assistance for Cambodia and Japan Relief for Cambodia	カンボジア農村地域の植樹活動及び環境教育	カンボジア コンボントム州、 オッドンミンチェイ州、パンテアミン州	36
30	認定特定非営利活動法人 アジアチャイルドサポート	「水で支える暮らし」と「未来へつなげる水環境」	ミャンマー エヤワディ地域シャクワンヤン 地区チャウンター村落群ウド村	37
31	Deepak Foundation	Water Conservation	インド グジャラート州 ハロル・カロール地区	38
32	特定非営利活動法人 ウォーターエイドジャパン	インド・テランガナ州農村部における水質管理・衛生プロジェクト	インド テランガナ州 ニザーマーバード県、カマレディ県	39
33	特定非営利活動法人 ロシナンテス	水衛生改善を通じた、スーダンでのコミュニティ開発事業	スーダン共和国 ハルツーム州 北コルドファン州	40
34	認定特定非営利活動法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	ケニア深井戸建設及び給水システム確立プロジェクト	ケニア ナロック群南ナロック県	41
35	モザンビークのいのちをつなぐ会	モザンビーク・ペンバにおける公衆衛生プロジェクト	モザンビーク共和国 カーポデルガド州 ペンバ ナティティ地区	42

2017年度(第12回)助成活動の成果

助成金 総額 **4,975.5万円** 運営経費 **625万円**

■ 助成によって実施した活動

活動回数 **779回**

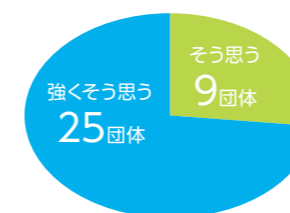
助成団体 **35団体**

活動にご参加いただいた人数 **27,546人**
うちTOTOグループ参加人数 **1,457人**

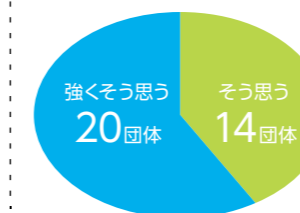


■ 人や地域へもたらした変化

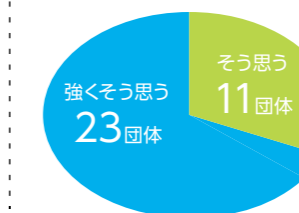
地域課題の改善や解決のために貢献できたと思いますか？



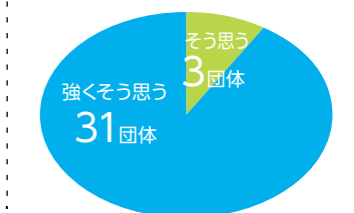
環境に配慮した行動をするべきだという意識の変化を、より多くの人々に与えられたと思いますか？



別の環境課題を見つけた場合に、新たに取り組んでみることを考えてもいいと思いますか？



TOTOは地域・社会課題の解決に貢献していると思いますか？



助成した35団体へのアンケート調査結果より※未回答1団体

第1回～第12回の累計

助成団体:239団体 助成金額:2億9,558万円
活動回数:2,676回(第7回以降) 参加人数:104,267人(第7回以降)

特定非営利活動法人 白神山地を守る会

【代表者】 永井 雄人

国内

【プロフィール】

当会は、白神山地のブナの森の復元・再生活動を実施する団体として、1993年白神山地が世界遺産登録した年に発足しました。白神山地は、世界遺産になる前にブナの伐採があり、現在もその箇所が自然遺産周辺でかなりの箇所があります。将来的にこの自然遺産を次世代に残していく為に、その箇所にブナ等の広葉樹の植林活動を実施したり、自然保全の活動を理解してもらう為のガイドや広葉樹の苗木づくり等の種苗活動や、環境教育活動を実施しています。

●事業活動・内容

白神山地の素晴らしい自然を多くの人に知ってもらうことも、自然保護のあり方と考えており、そのためには、環境教育・自然保護活動、そして体験することが何よりと考えています。

<主な事業内容>

①「白神山地エコロジー体験ツアー」の実施

白神山地の自然を学び、体感しながら歩くトレッキングツアー

②「森の復元活動」の実施

ブナの苗木を植林し、ブナの森を復元・再生する活動

③「白神夏休み自然体験塾」「白神自然学校インストラクター養成講座」等のイベント・教育の推進

次代を担う子どもたちの自然体験を通じた情操教育、大人を対象とした自然体験・登山などを支援するために、コーディネートならびにガイド・プログラムを開発する人材の養成



白神山地ブナ植樹フェスタ in 赤石川植樹祭

●2017年度の活動

白神山地の最大の恵である良質な水を保全・活用する活動

●活動地域

青森県西津軽郡

●助成期間(年) **1** **2**

今年こそと気合を入れて秋にブナの種拾いに奔走しましたが、やはり今年も種は不作でした。自然界は難しいというのが正直な気持ちです。

春からのミズナラの種まき、少ないながらもブナの発芽、マルチトレーコンテナの水かけは順調に続けることができました。また、参加者が100人規模と60人規模の植樹祭、下草刈りおよび低木のオオバクロモジ・間伐材のスギからの精油づくりも実施することができましたので、計画していた活動は概ね順調に進んだと思っておりますが、ブナの種だけは実をつけてくれず、これだけが悔やまれてなりません。2018年度の課題となりました。

●活動回数 / 15回

●活動参加人数 / 632人

●ゴミの回収量 / 60kg

●植樹 / 230本 (ブナ・ミズナラ・イタヤカエデ)

●整備面積 / 1,000㎡

現地の声

参加されたみなさんからは「こんな奥山の急斜面での植林活動は初めて」と言われます。一般の方々にとっては平地での植林活動が多いようですが、「私たちはブナが伐採された地域を元に戻す一伐採地の再生活動です」と説明すると、大変な活動であることを理解していただいています。



ビニールハウス種まき作業



白神植樹祭①



白神植樹祭②

カワラバン

【代表者】 菅原 正徳

国内

【プロフィール】

地域資源を活用した様々な取り組みを広く市民に提供することで、地域の環境保全と活性化に寄与することを目的に設立しました。川をはじめとした環境の保全やまちづくりには地域毎の担い手育成が不可欠であり、育成には児童期からの地域の水辺等の自然や地域を題材にした体験学習を継続的に行うことが重要であるという観点から、主に小学校での川をテーマにした出前授業や体験活動を行っています。

●事業活動・内容

①小学校等を対象とした環境学習および体験活動(77回実施、延べ3,500人参加)

②親子向け体験活動(15回実施、685名参加)

③その他一般向け講座・生態調査

①は助成プロジェクトを含む活動で、これまでで最多となる77回実施しました。

②は主に土日祝日に行っている親子などを対象にした自然体験です。6～9月の最終日曜日に行っている親子向け川あそびは10数名程度の小規模な活動です。その他には、市内の市民センターや児童館が利用者向けに企画した川遊びも数回実施しました。中には1日に200名の子どもを対象とした川の体験活動や、サマーキャンプの海プログラムとして実施したカヌー体験等もあります。

③は、日常的に行っている魚類等の採取結果をまとめるとともに、得られたデータから魚種毎の生息エリアや通年の行動を調査しています。



子ども向けデイキャンプでの沢歩き

●2017年度の活動

まちの水辺のまなびの場づくりプロジェクト

●活動地域

宮城県仙台市

●助成期間(年) **1**

当初予定の倍近い770名の児童などを対象に、川の学習や体験活動を提供することができました。

仙台市では、学校等が外部講師を招いての環境学習を実施する際に、経費を支援する制度があります。しかし予算に限りがあるため、選から漏れた活動の多くを当団体の経費でまかなってききましたが、本活動によって支援することができました。また、これまでは、実施した活動がその後の学習にどのようにつながったが不明でしたが、活動後に実施したヒアリングによってそれが判明し、今後の補完プログラムの必要性があらかになりました。

●活動回数 / 10回

●活動参加人数 / 770人

(環境学習・親子向け体験活動等)

現地の声

・活動をサポートした保護者の学びにもつながっていました。
・市の教育課題発表会で発表し、好評を得ました。
・座学をもう一回実施できると良いです。
・広瀬川に特化した資料があると良いと思います。



八本松小学校での教員向け体験活動



上愛子小学校での川の体験活動



八幡小学校での川の体験活動

国内

【プロフィール】

東北地方最大の都市である仙台市は、広瀬川の河畔に市街が形成され、広瀬川やそこから平野部に分岐した疏水網との関係の中で、水と縁が深い文化を発展させてきました。広瀬川には今も稀少サケ類であるサクラマスが遡上し、平野部の疏水網にはかつては野生メダカが見られましたが、水源機能の低下や取水によってサクラマスが減少し、東日本大震災に伴う津波の後はメダカが見られなくなりました。市民もまた水文化から遠ざかっています。こうした変化の中で、宮城教育大学等、地域の組織の有志で本団体を設立し、河川の魚類等との関係からの水環境や水文化の復権を目指した活動を展開しています。

●事業活動・内容

本団体では、広瀬川水系に生息する稀少魚類等の保全を通じた水環境・水文化の復権活動に取り組んでいます。例えばその一環として、広瀬川に生息するサクラマスの生態を電波発信機による行動解析手法によって明らかにし、発眼卵の孵化放流や河川整備活動に還元してきました。また、東日本大震災によって壊滅的被害を受けた野生メダカの生息域の復活のため、メダカの里親とともにめだか米栽培等の活動に取り組んでいます。今後は、学校や里親を本活動のサポーターとして、さらなる水文化の復権と保全に取り組むと考えています。



大学生を対象とした広瀬川の水生昆虫観察会

●2017年度の活動

仙台 市民とともに醸成する水文化復権の流れ

- 活動地域
宮城県仙台市
- 助成期間(年) **1** **2** **3**

広瀬川とその疏水網によって発展を遂げてきた仙台の水文化の復権の流れを市民とともに醸成し、環境保全や地方創生、震災からの復興に結びつけるため、疏水網流域のメダカや広瀬川のサクラマスの保全活動に取り組んでいます。今年度の活動により、津波で被災した仙台市沿岸域にメダカと稲作を共存させる湧水ビオトープ田んぼを新造するとともに、メダカの里親プログラムを推進しました。また広瀬川の魚類標本の作製やサクラマスの発眼卵飼育・放流、水生昆虫の観察調査などに取り組んでいます。

- 活動回数 / 27回
- 活動参加人数 / 520人
- 整備した面積 / 820㎡

現地の声

- ・東日本大震災のあと、具体的に自分ができることはないかと考えていましたが、メダカの里親活動を通じて保全に関わることができました。
- ・一人ではなかなか広瀬川に行くことはありませんが、専門家から釣りの仕方や川の生物について学び、川を身近に感じることができるようになりました。
- ・イベント用の田圃で田植えや稲刈りを体験しながら、生態系を守る取り組みに参加したいと考えています。



大学生を対象に広瀬川に遡上するサケの観察会



小学校にメダカ保全のためのビオトープを新造



仙台沿岸遠藤環境農園でめだか米の観察

国内

【プロフィール】

いのちは どこから生まれ なにに生まれ どこへ還ってゆくのでしょうか。生物多様性に満ちた里山の「生命のつながり」に気づき、里山に継承されてきた自然と共生する「くらしの知恵」を学び、自然の叡智を体験的に知る環境教育の場として環～WAを拓きました。環～WAのフィールドで得た気づきやそこから生まれるアイデアを持続可能な次世代里山ライフスタイルの創造とチャレンジの機会を生み出しています。

●事業活動・内容

- ・竹パウダー成分分析と肥料開発
- ・森林整備と自然エネルギー体験学習会
- ・地域おこし協力隊、茨城大学の学生との協働による児童向け里山体験プログラム
- ・地元地区の三世交代(栗の木整備体験と手づくりペレットや薪を使った野外調理)
- ・講義、講演(茨城大学、那珂市、NPO法人森づくりフォーラム)
- ・企業の環境活動支援(日立製作所水戸事業所)
- ・企業の環境保全資料制作



地元の三世交代事業を環～WAが保全する栗畑で実施・指導

●2017年度の活動

1300年の里山の歴史を未来へ

- 活動地域
茨城県茨城町
- 助成期間(年) **1** **2**

当地には、国指定文化財「小幡北山埴輪製作遺跡」、室町時代に築城された町指定史跡「小幡城跡」および県指定保全緑地「矢連緑地環境保全地域」があります。国の予算がついている文化財は整備されていますが、県や町指定のもの手つかずで荒れており、竹や篠が繁茂し、枯損木が山積されていました。本プロジェクトによって町との協働がかない、「小幡城跡」においては100人を超える町民・地元企業とともに整備を継続実施しました。また「矢連緑地」においては、当団体の定期活動で、市民ボランティアやTOTO茨城工場の皆さまとともに整備を行い、数十年来不通となっていた散策路を再生することができました。チップを導入して伐採した竹や人工林の枝葉を粉碎し、山道整備や農業資材に活用するこの取り組みは県内各地に広がり、活動参加者や視察者が増加し、国内優良事例としてシンポジウムや専門誌等で紹介されました。

- 活動回数 / 48回
- 活動参加人数 / 802人
- うちTOTOグループ社員 / 38人
- 植樹 / 61本(クヌギ・コナラ)
- 整備面積 / 130,000㎡

現地の声

- ・小幡城址が見違えるようになりました。
- ・自分の自宅周辺でも竹林の荒廃が進んでおり、チップにして遊歩道に撒くことで、景観が良くなり、防草にもなる竹の利用はやってみたい。
- ・昔は里山のものを畑や日々の暮らしで使っていた。東日本大震災のときに、山から拾った枝で火を起こして暖をとったことを考えると、当団体の取り組みはとても重要だと思いました。



茨城東高校間伐実習



竹利用 畑の道具小屋の屋根



矢連緑地 整備・破碎

国内

【プロフィール】

当団体は、歴史上の経緯から生き物たちの楽園・自然の宝庫となった渡良瀬遊水地において、「渡良瀬遊水地をラムサール条約登録湿地にすること」および「渡良瀬遊水地エコミュージアムプランを実現するための活動をする」とを目的として発足しました。6年前には他の諸団体や渡良瀬遊水地の治水推進派の合意を得て、ラムサール条約登録を実現することができました。現在は渡良瀬遊水地の現状を調べつつ、将来の有り方について国土交通省への提言を行うなど、より良い方向性を模索しながら活動を実施しています。

●事業活動・内容

- ①日本有数のヨシ原を守ろう
 - ・渡良瀬湿地帯での観察会(自然と歴史)
 - ・地域学習としてのヨシ刈りやヨシズ編み
 - ・学術機関と連携した、新たなヨシの利用方法についての調査・研究
- ②お宝探しプロジェクトー湿地帯のタイムカプセル
学術機関や周辺の学校とともに、学校ビオトープを利用した植物調査・研究、環境教育
- ③足尾にふるさとの森を復活させよう
渡良瀬川上流・下流域が協働した植樹活動、どんぐりの里親制度
- ④わたらせ流域プロジェクト
渡良瀬川流域のNPO・自治体などとのネットワーク構築、湿地保全・再生プロジェクト実施
(第二調整池におけるモニタリングと湿地メンテナンス)



四ツデを使用して追い込み捕獲

●2017年度の活動

渡良瀬川が繋ぐ上・下流域環境保全再生プロジェクト

●活動地域

栃木県日光市 足尾、渡良瀬遊水地

●助成期間(年) 1 2 3

渡良瀬川上流の足尾山地と、下流にある低層湿原の渡良瀬遊水地は、線と面でつながっています。

渡良瀬遊水地の水環境と治水のため、足尾の緑の再生を目指して15年前に活動を開始した第一次植樹地では、木々の生育が進み、次の段階として鹿避けネットを外して個々の木に樹脂ネットを巻きつける作業を始めました。また、新しい植樹地に遊水地のヨシ腐茎土を活用して16本の苗木を植栽しました。

渡良瀬遊水地の湿地保全・再生については、一年を通して、
・湿地の在来植物保全のための外来植物・つる性植物の除去、外来生物駆除(ザリガニ釣り)

・ヨシ原保全とヨシ活用(腐茎土づくり)のためのヨシ刈り
・ヨシ焼きから絶滅危惧種や野鳥を守るための屋敷林周囲の防火帯づくり
・ヨシ焼きの際の不法投棄廃棄物焼却を減らすためのクリーン作成 等の活動を実施しました。

これらの活動が認められ、応募した国土交通省「平成29年度 手づくり郷土賞(一般部門)」に認定されました。



低層湿原の環境保全のための外来植物や遷移を進めるヤナギ等の除去



渡良瀬川上流足尾で緑化のため植樹



ヨシ原保全と有名利用のためのヨシ刈り

●現地の声

毎年・毎月、同じような活動を繰り返すことになるため、飽きられてしまうことも事実で、「もっと楽しみながらできる活動を」と考えています。その意味で外来生物駆除のための「ザリガニ釣り大会」は、新たな方々に参加していただけて良かったと思います。その人たちに、すぐには活動の目的などを理解してもらえとは限りませんが、きっかけづくりにはなったと思います。

国内

【プロフィール】

ほたるの里づくり実行委員会は、生き物を通して自然の仕組みを理解し、共生するため、ホタルをはじめとした多様な生物の生息環境づくりを、市民・企業・八千代市とのGrandワーク方式で平成10年から活動し、20年が経ちました。昔は里の周辺の田んぼでヘイケボタルの飛翔が見られましたが、圃場整備などの影響で絶滅しました。里では、八千代市内のヘイケボタルの再生を願い、また多様な生物の生息の場となるように活動しています。平成27年には「生物多様性保全上重要な里地里山」(環境省)に選定され、次世代の子どもたちにつなぐ場としても、今後も活動していきます。

●事業活動・内容

- ①平成29年度環境作品展 ～八千代の自然・グリーンカーテン～
「八千代の自然」部門において、八千代市と共催し、市内の自然風景や生き物の写真・絵画を展示
入賞作品3点に対し、表彰状と景品を贈呈
- ②「ヤマトミクリの里づくり協議会」との連携活動
市内の環境団体等で協働する活動に参加(主として草刈り等)
- ③「やちよ市民活動フェスティバル2017」への出展
市内団体の交流を図り、パネル展示や当団体の紹介DVDの放映ならびにアンケートを実施



ヘイケボタルの幼虫放流

●2017年度の活動

生物多様性の基地として ～目指そう ホタルの自生～

●活動地域

千葉県八千代市

●助成期間(年) 1 2 3

当団体は「ほたるの里」を、都心に近い町の中で、市民が緑を身近に体験できる場所、生物多様性を考えてもらう環境学習の場所として活動しています。今年是一年を通じた環境整備に加えて、普及啓発イベントとしてのプログラム「おやこ生き物探検隊」を年4回実施しました。このプログラムでは、小学生の親子を対象に四季ごとに生き物を探してもらい、生き物への関心を持ってもらうきっかけとなりました。

環境整備では、ほたるの里内の樹木伐採や植栽、草刈りを計画的に行い、生き物が住む環境づくりを計画的に行いました。また、ヘイケボタルの自生する環境づくりを学ぶため現地視察等を行い、結果として生息場所を保全するための木道づくりを進めていくこととしました。通年の環境整備の成果として、本年度もトウキョウダルマガエルやニホンアカガエル、ジュウニヒト工等を保全することができました。

●活動回数 / 19回

●活動参加人数 / 520人

●うちTOTOGグループ社員 / 53人

●動植物駆除 / 70匹(アメリカザリガニ)

●現地の声

都会に近い場所でありながら、多様な生物を見られる場所として、自然観察や環境学習の時に「よかった」という意見を多数いただきました。



里周辺の杭が古くなったので交換



子どもも大人に負けじと木の枝運びのお手伝い



湿地で雨の中での田植え作業

特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所

【代表者】 竹垣 英信

国内

【プロフィール】

森林と触れ合った体験に乏しく、森づくりへの理解が深まっていない多くの人々に対して、楽しさを取り入れた多彩な活動を展開することで、ごく普通の人々が当たり前のように森づくりに関心をもてる社会を創造し、もって日本の森林の育成・保全に寄与することをめざして日々活動を行っています。

●事業活動・内容

- ・都民住民と山間地域の住民との連携－協力による森林の育成と保全活動および森林学習
- ・森づくりのコンテンツを活かした企業の社会貢献活動を促進するためのプログラム提供
- ・シングル世帯への野外体験活動の参加機会の提供



暗くなった森に手を入れ、明るい森へ

●2017年度の活動

千葉県九十九里海岸防災林の再生～海岸林の機能強化をめざして

●活動地域
千葉県山武市

●助成期間(年) **1** **2** **3**

3.11の津波による塩害によって失われた千葉県九十九里浜(蓮沼殿下海岸)の防災林を元に戻すために、2012年から植林を続けてきました。6年目の活動となる2017年度も、延べ277名のボランティア参加のもと、6回の活動を行いました。成果として新たに2,000㎡に、やせた土地や乾燥、潮にも強い抵抗性クロマツ2,000本の植林を行うことができました。さらに、これまでに育ててきた32,000㎡・32,000本の苗木周りの下草刈りも実施し、海岸林の公益的機能の強化に大きく貢献できました。

- 活動回数 / 6回
- 活動参加人数 / 277人
- うちTOTOグループ社員 / 76人
- 植樹 / 2,000本 (抵抗性クロマツ)
- 整備面積 / 34,000㎡

現地の声

- ・この活動に2012年から15回くらいは参加しています。震災に対して何かできることを探していたのが最初のきっかけでしたが、今は、これだけ植えてきたので、使命感みたいなものも生まれてきました。
- ・普段、仕事をしていると緑とか自然とかを感じないので、こうして自然の中で、震災とかのことも考えながら過ごすのはとても有意義な1日だと思います。



張り切っていきましょう



根気よく手鎌で雑草を駆除



みんなで頑張って植え終わりました

白子川源流・水辺の会

【代表者】 菅沢 博

国内

【プロフィール】

白子川の源流域(練馬区立大泉井頭公園内)は、東京23区内でも稀有な湧水が多くみられ、絶滅危惧種のホトケドジョウをはじめ多種多様な生物が生息する貴重な水辺環境となっています。白子川源流・水辺の会は、当エリアの自然環境の保全・回復を図ることを目的に2001年6月に設立し、以来15年にわたって貴重な湧水と豊かな水辺環境を守る活動を続けてきました。今後もこの活動を通して、地元子ども、住民、学校、商店街、企業等地域の多くの方々が「湧き水のある町 大泉」を実感できることを目指していききたいと思います。

●事業活動・内容

- ①定例活動
 - ・水質・水量、水生動植物の生態調査
 - ・川の清掃、水草の刈り取り
- ②近隣小学校の総合学習への支援(講師派遣、川体験の実施)
- ③「白子川源流まつり」(環境啓発・地域の交流)の開催



源流隣の畑

●2017年度の活動

白子川源流域の湧水量と水質の回復による水辺環境の再生

●活動地域
東京都練馬区

●助成期間(年) **1** **2** **3**

2017年度は白子川源流域の緑地環境の行方に暗雲が立ち込める二つの事案が浮上した激動の一年でした。2022年生産緑地法の指定解除期限到来に伴う農地の宅地転用が一挙に進んだこと、東京都の河川整備計画において、白子川源流部に巨大な調整池の設置が盛り込まれたことです。今年度はこの対応に多くの時間とエネルギーを費やすことになった一方で、改めて白子川が存在意義と重要性を多くの地域住民と共有できました。

今年度は定例活動、白子川源流まつり、環境学習支援等の一般市民参加活動に加え、研究会の開催や新規に取り組んだ「湧水量計測調査」など会員に特化した活動においても定例化が図られ、充実した取り組みが実現できました。今後予定されている「大泉井頭公園(源流部)整備計画」に向けた行政との協働作業のための組織力強化とデータ収集力の拡充が企図され、深度ある活動となりました。

- 活動回数 / 35回
- 活動参加人数 / 1,693人
- うちTOTOグループ社員 / 39人
- ゴミの回収量 / 705kg
- 植樹 / 20本 (コウホネ・アサザ)
- 動植物駆除 / 2,240kg (ウキヤガラ・ミズヒマワリ)

現地の声

白子川に興味を持った方には「ぜひ、川に入ってみて!」と言っています。初参加者の川に入ったときの第一声「ワ～、(冷たい)(気持ちいい) etc…」は、五感のフル機能全開の言葉であり、白子川の存在が単なる風景でなくなる一瞬でもあります。



白子川訪問団体



五感で川体験



源流まつり 生徒が作った白子川の会発表

国内

【プロフィール】

変遷していくスピードの時代に対応していくためには、従来型のひとつひとつの「建築」を個々に考え築きあげていくよりも、知識人達や優秀な「ものづくり」の心と技を持つ職人達との人脈ネットワークを利用し、新しいライフスタイルや建築空間のあり方等を提案したり、将来の方向性を探るコンサルティング組織（シンクタンク）が社会に対して必要ではないか、そう考え2007年11月に『建築系シンクタンク』として発足させました。『半歩先の都市型のライフスタイルを考察しています。』をキャッチコピーとして、環境保全、減災活動、地域まちづくりをテーマにプロボノ活動を展開しています。

●事業活動・内容

【建築技術コンサルティング】

- ・減災推進活動
- ・若手技術者育成などコンサルタントとしての活動

【まちづくり支援、空間プロデュース】

- ・減災まちづくり支援
- ・「都市と自然との共生」の考察
- ・都市型ライフスタイルの空間プロデュース 他



都市型災害に対して、減災推進活動に参加

●2017年度の活動

西なぎさ発・東京里海エイド

●活動地域
東京都江戸川区

●助成期間(年) 1 2 3

葛西浜公園西なぎさは、都心にある希少な干潟であり、生物多様性に富んだ「自然と都市の共存」の象徴的な場所です。一方、風が強い日や潮の満ち引きの加減で、西なぎさにはたくさんの漂流ゴミが打ち上げられます。漂流ゴミは様々な種類におよび、美しい景観を損ねてしまうと同時に、海洋生物への悪影響はもちろんのこと、医療ゴミやガラス破片などはなぎさで遊ぶ子どもたちにとって大変危険です。そこで少しでも漂流ゴミを減らすことを目的として活動しています。

2017年度は、市民活動化してから8年目の活動で、総参加者数は380名でした。目標の400名に届きませんでした。複数の組織・団体の参加もあり、葛西地区の干潟の希少性と漂流ゴミの社会問題についての認識がより広まりました。また、活動中にテレビ局の取材も2件ほどあり、活動の信頼性も向上してきた手ごたえを感じています。

- 活動回数／ 11 回
- 活動参加人数／ 380 人
- うちTOTOグループ社員／ 108 人
- ゴミの回収量／ 1,285kg
- 整備面積／ 30,000㎡

現地の声

- ・思っていた以上に生活で出るゴミが多かったと感じました。今後生活を見直していこうといういい機会になりました。
- ・終わってゴミの量を見返したら、想像以上に多くて驚きました。
- ・初めてボランティアに参加しましたが、拾っているいろいろなことを考えさせられたり、新しい発見が多かったです。



西なぎさのビーチクリーン①



西なぎさのビーチクリーン②



西なぎさ発 東京里海エイド

国内

【プロフィール】

毎日どれだけのプラスチックを中心とするゴミが、河川を通じて海洋に流出しているのか、私たちの生活排水がどれだけ海に影響を与えているのか、私たちの出したゴミで海の生き物たちがどんなダメージを受けているのか…。これらのことを写真展、ビジュアルトークショー（講演）、ビジュアルコンサート（映像と音楽とのコラボレーション）、デジタル紙芝居（映像と読み聞かせとのコラボレーション）などで次世代の地球をになう子どもたちに伝える活動です。環境保全活動を実践しながら、環境保全の必要性を普及啓発しています。2008年1月に活動を開始し、2012年1月にNPO法人としました。

●事業活動・内容

- ダイバーによる城ヶ島海底清掃 2回実施(イオン環境財団環境助成事業)
- ダイバーによる茅ヶ崎海底清掃 2回実施(イオン環境財団環境助成事業)
- ダイバーによる大岡川川底清掃 2回実施(イオン環境財団環境助成事業)
- 神奈川の源流域探索ツアー 10回実施(神奈川県もり・みず市民活動支援補助金助成事業)



ダイバーによる城ヶ島海底清掃

●2017年度の活動

独自メディアで発信!大岡川クリーンアップ大作戦

●活動地域
神奈川県横浜市

●助成期間(年) 1 2 3

横浜市内中心部を流れる大岡川において、陸上班、SUP班に分かれて実施したPGT（P:プラスチックG:ゴミT:獲ったどお）大作戦は、当日の天候が悪く開催できなかった回が5回あったものの、年19回実施することができました。年間のゴミ回収量は目標を下回りましたが、私たちの活動が新聞に大きく取り上げられ、他にもゴミ拾いを行う団体が増えてきたのもその要因と考えられ、本PGT作戦の一つの波及効果だと感じています。また、環境保全の普及・啓発のための写真展を3回開催、大岡川をゴミのない川にしていく過程を情報発信するための広報誌は年4回発行していますが、各回4ページが6ページに、3,000部発行が5,000部へと増刷になり、広報力も増えています。これらの活動が実を結び、会員数も活動前の約2倍となって目標の200名を達成できたのは大きな成果だと思います。

- 活動回数／ 25 回
- 活動参加人数／ 962 (うち写真展 370) 人
- うちTOTOグループ社員／ 9 人
- ゴミの回収量／ 800.169kg

現地の声

ゴミ拾いは、なんか陰気なイメージを持っていましたが、参加してみたら意外にも楽しかったです。街にポイ捨てされていたゴミがこんなにあるとは思いませんでした。吸い殻の多さには閉口しました。



陸上班、SUP班、ボート班の3班でゴミ拾い



大岡川 PGT 大作戦



TOTO 横浜ショールームでの写真展

国内

【プロフィール】

射水南部丘陵地里山の樹木は、30～50年間木が利用されなくなったため、高木が生い茂り荒廃が進んでいます。原生林化した里山は、光・風が入らず新たな樹木も育たない環境となっており、猪や熊が出る奥山となってしまいました。

そこで、昔のように間伐を実施し、木を薪・茸原木に利用し、広葉樹林に広く光を取り込むことで、保水機能の豊かな涵養林の拡大を図っています。

●事業活動・内容

- ・涵養林の里山を除去し、整理。チップーシュレッダー作業で発生するチップでチップロードを作成
- ・除去した木を薪の生産や茸原木に活用。各種の茸菌を植菌し、茸の生産を実施
- ・環境啓発活動：「里山林の必要性」についての研修会、里山実務研修を実施

(対象：金山小学校児童、富山県立大学生、TOTO社員)



小学校で椎茸植菌の作業研修会

●2017年度の活動

水と緑の輝く里山プロジェクト

●活動地域
富山県射水市

●助成期間(年) 1 2 3

水と緑に輝く里山プロジェクトは、活動を始めて6年を経過し、着実に進歩しています。

エネルギーとしての薪の利用や椎茸等の茸栽培に原木を活用するしくみは、里山と人間が共存することへの持続可能な取り組みへと進展してきました。また、その活動のフィールドは学習の場となりました。

全国植樹祭での発表もあり、里山環境保全に対する認知度が広がりました。今後は里山の保全を活用した学習や健康増進の場としての提供など、活動の拡大を実行していきます。

- 活動回数／69回
- 活動参加人数／495人
- うちTOTOグループ社員／45人
- 整備面積／7,000㎡
- 椎茸原木製作／560本
- 薪生産／18㎡

現地の声

里山の整備作業から始まった活動は、地域活性化へと進展し、会員数も倍増しました。全国植樹祭における発表団体に認定されたことも活動の成果の一つです。



涵養林の薪づくり



涵養林の除伐



里山涵養林の除伐

国内

【プロフィール】

忘れられ荒れていた私たちの里山大富山(特に中心を通る美佐野街道)の再生を目指してスタートした活動ですが、山中には準絶滅危惧種のシデコブシなどが多く自生しており、その保護・育成にも力を入れることになりました。また、今年度からは山の魅力向上を狙ってホタルを飛ばすことを目標の一つに加えて、ホタルの飼育にも活動範囲が広がってきています。

●事業活動・内容

プロジェクトには直接関係ありませんが、地域の夏祭りやTOTO夏祭り、TOTOフェア等に積極的に参加して、当団体のPRをしたり、泉公民館と共催して、地域の人を対象とした「美佐野街道を歩こう会」や「しいたけ菌打ち講座」なども開催しています。



しいたけ菌打ち講座

●2017年度の活動

大富山湿地の涵養と保護及び美佐野街道ふれあいの場所整備

●活動地域
岐阜県土岐市

●助成期間(年) 1 2 3

大富山にあるシデコブシなどの貴重な動植物を守り育てていくために、シデコブシ密生地のシデコブシ被圧樹木の伐採除去など、地区内の環境保全活動を行うとともに、地区内を通る美佐野街道の草刈りや継続的な維持補修活動を実施しました。

また、新たにホタルの放流活動を実験的に始めるなど、美佐野街道を散策し、大富山の四季を楽しむ人が増加することを目的に事業を実施しました。

- 活動回数／14回
- 活動参加人数／327人
- うちTOTOグループ社員／64人
- 植樹／40本(紅葉・桜)
- 整備面積／1,000㎡
- ホタル幼虫の放流／約700匹

現地の声

・身近なところにこんな素晴らしい散策路があることを知りませんでした。
・ホタルが飛ぶといいですね。



ホタルの幼虫のえさとなるカワニナの捕獲



美佐野街道草刈り



美佐野街道の湿地部分の補修

国内

【プロフィール】

私たち一般社団法人海っ子の森は、30年前の豊かな海の森を取り戻すため、2004年に海藻の植林活動を始めて13年がたちました。以下を活動の柱として取り組んでいます。

- ・三重県沿岸(鳥羽、東紀州)で自然石を利用した海の植林活動による海の森づくり
- ・豊かな海の自然を守るための魚付き保安林や海の神様が守る海藻の森を「海の鎮守の森」と名付け、資源を大切にす文化を伝えること
- ・新鮮な海の幸を通して、三重の海や漁師のことを県内外に発信していくこと

●事業活動・内容

- ・ミキモト真珠島での海の植林事業支援
(ミキモト真珠島での海女による海の植林の指導)
- ・三重県の海の食材PRセミナーの開催
(漁業者支援活動:三重ブランドの岩ガキを使ったワインセミナーの実施)
- ・三重県度会町風力発電所現地訪問と環境保全に対する意見交換
- ・日本地域創生学会設立総会での活動報告(東京)



ミキモト真珠島海女によるアラムの植林

●2017年度の活動

市民による海のビオトープづくり活動とドローン活用藻場観察

- 活動地域 三重県北牟婁郡、尾鷲市
- 助成期間(年) 1

2004年以来13年間実施してきた海藻の植林活動においては、アラム、カジメの植林総数が2,140個になりました。海の環境は毎年大きく変わるため、海藻の成長には個体差があり、なかなか海藻林にまで育たないものもありますが、これからも継続して活動していきます。

海洋調査では、従来の水中ビデオカメラに加えてドローン空撮による育成調査を行いました。撮影条件も良く、海藻の分布状況を鮮明に捉えることができたことにより、現地状況に合った、より実践的な藻場造成が可能となりました。

また、この映像を使った海の環境学習も行いました。海の清掃についても、ボランティアダイバーと協力して、海岸、海中を含む広いエリアでクリーンアップ活動を行いました。

- 活動回数 / 11回
- 活動参加人数 / 104人
- うちTOTOグループ社員 / 23人
- ゴミの回収量 / 150kg
- 植樹 / 80本 (アラム・カジメ)

現地の声

活動を継続して実施してきたことで、地元漁師町での理解や意識の変革を感じられるようになりました。当初は「お前たちは何をやっているのか」「そんなことが何の役に立つのか」という目で見られていましたが、最近は「今度はいつ活動を行うのか」「海藻は大きくなったのか？」という興味が変わっています。環境保全の大切さが地元民の意識に定着してきています。



尾鷲行野浦海岸 海中清掃



熊野古道保全活動



海の植林活動

国内

【プロフィール】

「びわ湖をきれいにするにはまず地元の川から」の合言葉のもと、ゴミがなく自然環境に恵まれた家棟川にすることを旨として2007年に滋賀県野洲市に設立したNPOです。発足当初は、市民ボランティアによる家棟川のゴミ拾いと屋形船によるエコ遊覧、伝統の漁師料理の提供を通して、家棟川やびわ湖の現状を知ってもらう活動を行っていました。2011年から家棟川の生態回復の再生を目指して、家棟川流域の魚類の生態調査を始めました。更に、その成果を踏まえて現在のビワマスが町中まで遡上させる川づくりプロジェクトへと活動の幅を広げています。

●事業活動・内容

- ・びわ湖の水質改善と稚魚の成育場となるヨシ群落を再生するため、市民や事業所などから2回で延べ698人の参加を得て、あやめ浜でヨシ苗植えを行いました。また、湖岸の景観を保全するため、松林の下草刈り作業も行いました。
- ・びわ湖の水源を守るために、漁業関係者や生産森林組合と協力し、団体・企業など231人の参加を得て、水源となる山(大篠原地先)でコナラ等の植樹と整備(下草刈りと盛り土)を実施しました。



あやめ浜でのヨシ植え

●2017年度の活動

家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト

- 活動地域 滋賀県野洲市
- 助成期間(年) 1 2 3

本プロジェクトの目的は、ビワマスが遡上、産卵、生育できる川環境を取り戻し、町中までビワマスが遡上できる家棟川に回復させることです。

主な活動は以下のとおりです。

- ①魚道の設置:中ノ池川の落差工に鉄骨造りの仮設魚道を設置
- ②産卵床の造成:童子川・中ノ池川・祇王井川の5ヶ所に礫を入れ、産卵床を造成
- ③ビワマスの遡上観察:遡上するビワマスの観察記録の作成と不法捕獲の監視活動
- ④ビワマスの稚魚調査:稚魚の生育状況の確認調査
- ⑤ビワマスフォーラムの開催:今年度の活動報告と県内他の地域での取り組み報告



ビワマスの稚魚調査



鉄骨仮設魚道の設置

- 活動回数 / 19回
- 活動参加人数 / 569人
- うちTOTOグループ社員 / 32人
- ゴミの回収量 / 1,090kg
- 動植物駆除 / 20匹 (ブラックバス・ブルギル・亀)

現地の声

・野洲の良いところは自然が豊かなことです。その資源を活用して町を良くする活動が広がっていくことは素晴らしいと思います。今後、子どもたちや若い人、女性など、活動する人も多様になれば良いと思います。

・活動に参加して、ビワマスが遡上する姿を見たときは感動しました。

・またこの活動を知らない人もたくさんいると思います。もっと知ってもらえたら川を汚す人も減るのではないのでしょうか？



ビワマスの産卵床造成

川と海つながり共創プロジェクト

【代表者】 塚本 政雄

国内

【プロフィール】

亀岡市を貫流する保津川は、国内で2箇所だけ生息が確認されている国の天然記念物アユモドキに代表される豊かな生態系を持つ川であるとともに、保津川くんだりや嵯峨野トロッコ列車など、地域の重要な観光資源でもあります。2012年には内陸部で国内初開催となる「第10回海ごみサミット2012亀岡保津川会議」を開催し、内陸部からのゴミの発生抑制対策について議論、「亀岡保津川宣言」と「川のごみや海のごみを考える京都流域宣言」を採択しました。「川と海つながり共創プロジェクト」は、この両宣言を具現化するために、保津川でつながる関係団体が協働で取り組む組織として設立し、内陸部から海や川のゴミを減らす活動を進めています。

●事業活動・内容

- ①子ども海ごみ探偵団(子どもたちが一年を通じて実施する海ゴミの調査)
- ②環境教育(保津川や亀岡市内を流れる川においておこなう環境フィールドワーク)
- ③保津川の日(毎年3月第一日曜日に開催する市民参加型ゴミ回収イベント)
- ④保津川クリーン作戦(亀岡市内を流れる川におけるゴミ回収)
- ⑤企業・団体向けエコツアー(川や海において実施する体験を通して環境知識を身につけるツアー)
- ⑥小学校向け出張授業(海ゴミの実態や調査結果を教える環境学習)
- ⑦環境保全イベントへの出展



保津川清掃活動

●2017年度の活動

京都・保津川から世界の海を美しく～内陸部から取り組む海ごみ発生抑制プロジェクト

- 活動地域 京都府亀岡市
- 助成期間(年) 1 | 2

亀岡市を貫流し、京都嵐山へとつながる、豊かな生態系と歴史・文化的景観を有する保津川の流れに乗せて、海や川のゴミを減らしていこうという思いをつなげる市民参加型プログラムを実施しました。とりわけ、小・中学生とその保護者を対象とした「子ども海ごみ探偵団」(延べ親子50組119名)では、保津川と海岸での清掃活動とゴミの組成調査を行い、次代を担う子ども達に、川と海それぞれのゴミの現状と対策を正しく捉える実践的な環境学習を実施することができました。また、「保津川の日」(参加者約730名)では、保津川に親しみながらも、クリーン大作戦を展開するなど、世界的な環境問題となっている「海ごみ」が私たちの街を流れる川から出ていることが実感でき、身近な問題として考えるべきであることを、広く参加者に発信することができました。

- 活動回数 / 6回
- 活動参加人数 / 1,349人
- うちTOTOグループ社員 / 3人
- ゴミの回収量 / 900kg

現地の声

- ・小さいものでもちよつと捨てただけで大きな問題になることを知りました。生き物が死んでしまったりもします。ちよつとのゴミも捨てないでほしいと思いました。
- ・川や海を守るために沢山の人が協力しているということを知ることができました。
- ・ゴミを拾うと心がスッキリして、探偵しながら見つけると楽しい。自然とのふれあいやいいことをするというのを大切にしたいと思います。
- ・みんなが自分が出したゴミはゴミ箱に捨てたり、持って帰ったりするようになって、海も川もどんどんきれいになればいいなと思いました。
- ・上流の亀岡で捨てられたゴミもあるのかなと思いました。海や川はゴミ捨て場じゃないから、ゴミを捨てるのはやめてほしいと思いました。



ボートでの清掃活動



海ゴミ分類調査

NPO法人 アンビシャスコーポレーション

【代表者】 山本 哲司

国内

【プロフィール】

当法人は、「地域の小さな市役所」をモチーフとし、健全で正しく機能する、エクセレントな法人を目指します。地域課題に切り込み、地域や企業 また個人や団体と連携し、課題解決に取り組んでいきます。その中で、道徳心、互助精神、コミュニケーションを育み、地域の国民総幸福量の向上を図り、次世代へと繋げます。また、個人や団体、青少年や家族、多世代にわたる様々な人とを繋げ、ネットワークづくりと経済活性化を図ります。その中、様々な人や社会的弱者の相談・支援を行い、暮らしや仕事など環境の充実を図ります。

●事業活動・内容

- ①外堀川クリーン作戦 ～まちづくりコミュニティ清掃～ (まちづくり課題解決型事業)
- ②異業種ネットワーク交流 (ネットワークづくりと経済活性化事業)
- ③多世代間文化交流 (地域活性化、互助精神・道徳心・コミュニケーション等の推進事業)
- ④講座やチャレンジショップの開催・情報交換および発信等 (ソーシャル コミュニティ 事業)
- ⑤駆け込み相談所 (地域住民課題に対する相談・支援事業)



いごこちサロン

●2017年度の活動

「外堀川クリーン作戦」～まちづくりコミュニティ清掃～

- 活動地域 兵庫県姫路市
- 助成期間(年) 1

事業計画遂行の結果、不法投棄の減少効果や、課題解決に向けた地域全体の意識の向上などにつながり、大きな成果を感じています。活動は、改善から保全体制に向かってきており、あとは最終段階のヘドロ回収問題となってきました。まだ課題は残っていますが、今期の活動成果としては良い評価ができると思っています。また参加者においては、人とのつながりや連携、社会性や意識の向上など、様々な要素で自身の成長につながっており、当法人も一緒に切磋琢磨した結果として、一体感と信頼感が生まれ、価値ある活動にすることができました。

- 活動回数 / 6 (+パトロール6) 回
- 活動参加人数 / 149人
- うちTOTOグループ社員 / 33人
- ゴミの回収量 / 7,700kg
- 整備面積 / 150,000㎡

現地の声

- ・様々な人と一つの目標に向かって活動するのは清々しいです。
- ・楽しく充実した時間を過ごすことができました。
- ・価値観の向上につながりました。
- ・純粋にこの活動が好きです。負けないで継続して欲しいと思います。



外堀川クリーン作戦①



外堀川クリーン作戦②



水ズベリング in 外堀川

【代表者】 近藤 潤

国内

【プロフィール】

ゴミ拾いを行っている団体や組織、その他の関連機関と積極的に連携し、ネットワークを構築することによって、ゴミ拾いにおける交流や情報共有の促進事業、ゴミ拾いを行う団体や組織がない地域に新たな組織や団体を設立・運営する支援事業を実施しています。これにより、ゴミを拾う人々にとっては快適なゴミ拾い環境を、そこに暮らす地域の人々にとっては快適な生活環境を享受することができます。また様々な地域で生まれたこの「快適な環境」を相互に結び、モデルケースとして全国に波及させることで、放置ゴミのない、きれいな社会の実現に寄与することを目的としています。

●事業活動・内容

河川の清掃活動

- ・海老江干潟(大阪市・淀川)、毎月第二日曜日
- ・伝法(大阪市・淀川)、毎月第三日曜日
- ・石川(藤井寺市・大和川水系)、毎月第四土曜日



伝法での清掃活動

●2017年度の活動

島ゴミプロジェクト—離島に流れ着く漂着ゴミ拾い—

- 活動地域 和歌山県友ヶ島、家島 兵庫県
- 助成期間(年) 1 2 3

和歌山市にある友ヶ島と姫路市にある家島諸島の西島で清掃活動を行いました。どちらの島も無人島でありながら海岸には多くのゴミがあります。そういったゴミの多くは都市部で発生したゴミが河川や海を通じて漂着したものです。清掃活動をすることにより漂着ゴミを回収し、また清掃活動やワークショップを通じて漂着ゴミの現状と私たちの生活との関係を考える機会を作りました。活動を始めて11年目となる本年は5月に「無人島ごみ拾いin友ヶ島」を行いました。日帰りコースとキャンプコースがあり、初日は海岸の清掃活動とワークショップ、拾ったゴミでランタンを作成しました。二日目は初日とは別の海岸で清掃活動を行いました。10月には今回の活動が初めてとなる「無人島ごみ拾いin家島」を行いました。両島のゴミ拾いには合計118名が参加、236袋分のゴミを回収しました。

- 活動回数 / 2回
- 活動参加人数 / 101人
- うちTOTOGグループ社員 / 4人
- ゴミの回収量 / 2,070kg

現地の声

- ・きれいになった海岸をみると、いつもびっくりします。チーム対抗戦のゴミひろいは新鮮で楽しかったです。
- ・無人島なので不安もありましたが、スタッフさんの声掛けが温かく、体調なども気遣っていただけたのがとても嬉しく思いました。初心者でも安心して参加することができました。



家島ゴミ拾い活動



家島ゴミ拾い



友ヶ島ゴミ拾い

【代表者】 塩崎 健太

国内

【プロフィール】

川が暮らしの一部であった頃、そこには子どもたちの姿があり、子どもたちのはしゃぐ声が溢れていました。川で泳ぎ魚を獲り、それらを食べる。川には楽しいことが沢山あり、人々はその楽しみを通して川と深くつながっていました。そして川遊びを通じて、その土地の人々が昔から培い伝えてきた「川と共に生きる知恵や技術」を伝承していました。しかしそんな「川遊び文化」は、川で子どもたちが遊ばなくなった昨今では失われつつあります。当団体は、「川と人をつなぐ」をキーワードに、自分の暮らしと吉野川の関わりを「川遊び」を通じて感じてもらい、「川遊び文化」を再生し、川と共生する社会を作ることを目的としています。

●事業活動・内容

- ・第十堰水辺の教室
年間通じた吉野川の遊びと文化の体験(しじみ漁体験、干潟観察等)
- ・夏の川遊びキャンプ
河原でテントを張り、自分のやりたい遊びをとことんやりつくすフリーキャンプ(シュノーケリング、金突き、カヌー等)
- ・おやこアウトドアくらぶ はんもつく
0~5歳児の親子対象の、川遊び体験(干潟観察、カヌー等)
- その他、体験活動多数



漁師さんに教わって、しじみ漁を体験

●2017年度の活動

かっぱの川そうじ

- 活動地域 徳島県阿波市
- 助成期間(年) 1 2 3

吉野川は、全国でも有数の自然環境を有し、流域の暮らしや文化、産業の発展を支えています。また、子どもたちの恰好の遊びの場であり、環境や文化を学ぶ場となっています。そんな素晴らしい自然環境を持続可能なものにするため、毎月1回、河川敷清掃活動を実施しました。また、清掃活動という誰でも参加しやすい活動を通して、普段、川にこない人々を川辺に誘い、吉野川の生き物や風景、遊び方などを紹介することで、吉野川と人々をつなぐことができました。

- 活動回数 / 10回
- 活動参加人数 / 143人
- うちTOTOGグループ社員 / 32人
- ゴミの回収量 / 16,500kg

現地の声

- ・吉野川がこんなに遊べる場であるとは思っていませんでした。
- ・吉野川の新たな魅力を発見できました。
- ・河川敷で、鳥の卵を見つけたのがうれしかったです。



河川敷清掃



子どもも楽しみながら清掃



青空の下、カヌー体験

国内

【プロフィール】

当協議会は、小学校校区単位で地域コミュニティのネットワークを構築するとともに、住民の保健福祉、防災・防犯、生涯学習の拠点として設立されました。地域住民相互の連帯感と自治意識の高揚を図り、地域共通の課題解決に努めてふれ合いのある心豊かな地域社会づくりを目的としています。

TOTO水環境基金の助成をきっかけにして、それまで有志で行っていた環境整備を当協議会が中心となって計画的に進めてきました。山から海までの広範囲にわたって様々な環境活動を実施しています。

●事業活動・内容

- ①昭和池周辺・もみじ谷の環境整備、伐採・植樹
- ②朽網川河口の漂着海藻類・漂着ゴミの撤去
- ③曾根干潟の野鳥と水辺の希少生物観察会
- ④カブトガニの産卵観察会
- ⑤水晶山清掃登山
- ⑥朽網川の清掃活動
- ⑦昭和池クリーン作戦
- ⑧東朽網健康ウォーキングフェスタ



朽網川清掃活動

●2017年度の活動

水と緑の美化プロジェクト

- 活動地域 福岡県北九州市
- 助成期間(年) 1 2 3

東朽網は、水源地である水晶山から豊富な水をたたえる昭和池、住民の生活環境を流れる朽網川、豊かな養分を海へと送り出す河口や干潟と、それぞれが地域の宝ともいえる一連の水環境を有した稀な地域です。この豊かな自然を通して環境の変遷や地域の未来を住民全体で考えていく上で、大人から子どもまで一緒に学ぶ体験型学習活動と毎月の定例会を実施しました。活動目的は、水環境を次世代へ守り繋ぎ、地域の宝の大切さを共感できる環境意識の高い人づくりを行い、大人のみならず子ども達のシビックプライドを醸成することです。毎回、TOTO社員の皆さまや一般ボランティアの皆さまに参加いただき、大規模で効果的な活動に繋げることができました。今後もふるさと東朽網を愛する心を育み、継続して水環境を守り繋げる活動に取り組めます。



カブトガニの産卵観察会



昭和池・もみじ谷の環境整備

- 活動回数 / 27回
- 活動参加人数 / 813人
- うちTOTOグループ社員 / 169人
- ゴミの回収量 / 1,120kg
- 植樹 / 19本 (陽光桜、八重桜)
- 整備面積 / 21,000㎡
- 動植物駆除 / 桜の古木 (25本)

現地の声

- ・東朽網の素晴らしい自然環境を子どもたちに残すことは大人の責任だと感じています。
- ・約60年前に自分の母親たちが住民総出で植えた昭和池の桜。これからの子ども達にもきれいな花を咲かせて見せてあげたいと思います。
- ・干潟にカブトガニをはじめとする多くの希少生物が生息していることを初めて知りました。素晴らしい地域に住んでいることを誇らしく思います。
- ・干潟の先生と仲良くなれて、生き物のことをたくさん教えてもらい嬉しいです。



曾根干潟野鳥と水辺の希少生物観察会

国内

【プロフィール】

2010年9月に「改革プロジェクト」を発足し、地域の海岸などの清掃活動に取り組んできました。また、知人女性が不審者の被害に遭った事件をきっかけに、地域の見回り活動を開始し、2013年に新しいスタイルの防犯活動として若者を中心とした「パトラン(パトロールランニング)」を立ち上げました。清掃活動においては宗像の河口と2つの離島を結ぶYの字に沿った環境改善プロジェクト「Yの字作戦」を実施、「パトラン」においては全国で9つのパトランチームを展開し、現在約1,000人のパトランナーが活躍中です。「まちの環境づくり」・「パトロール事業」・「防犯啓発事業」の視点から、子どもや女性が安心して暮らせる地域社会の実現を目指しています。

●事業活動・内容

- ①まちの環境づくり
 - ・海岸清掃活動 定例活動(月1回)、「Yの字作戦」
 - ・市街地清掃活動 パトロールとゴミ拾いを合わせた「ごみ拾いパトロール」
- ②パトロール事業
 - ・夜間パトロール(メイン活動時間:20:00～23:00) 帰宅途中の女性や塾帰りの子どもが被害となりやすい駅や塾周辺をパトラン
 - ・下校時間パトロール 小学校と連携した下校時間に合わせたパトラン
- ③防犯啓発事業
 - 子どもや女性が自らの身を守るために必要な防犯知識や危機的状況からの回避についてのワークショップや啓発活動などを実施



大阪マラソン

●2017年度の活動

Yの字作戦2017

- 活動地域 福岡県宗像市
- 助成期間(年) 1 2 3

宗像の自然環境は美しく雄大ですが、近年海岸や河川的环境は著しく低下しています。世界遺産にも選ばれた宗像が誇る大島、地島、釣川の美しい自然環境を後世に残していくことの必要性を感じたため、本プロジェクトを実施しています。

1年間のプロジェクトで計9回の活動を実施、2,830kgの漂着ゴミ、廃棄されたゴミ、漂着木材を回収することができました。

「Yの字作戦」のプロジェクトに関わるメンバーは、10～30代がメインの若い世代を中心に構成されています。自然環境の改善には、まだまだ多くの方の協力や環境意識の定着が必要です。今年度は海辺・河川の現状を知ってもらい、環境問題について考え、行動に結びつけてもらえる一歩になるよう、環境への取り組みと活動報告を兼ねたリーフレットを制作しました。



深浜海岸クリーンアップ



活動報告リーフレット



大島クリーンアップ

- 活動回数 / 9回
- 活動参加人数 / 203人
- うちTOTOグループ社員 / 116人
- ゴミの回収量 / 2,830kg

現地の声

- ・活動を通してゴミについて深く突き詰めて考えることができました。いろいろな年代、職業の方とふれ合い、一つのことに向かって取り組むことはとても楽しく刺激になります。子ども達も考えの幅が広がり、学ぶことが多いと感じています。
- ・この活動では、ゴミを拾うだけでなく、参加することによって宗像の自然環境が置かれている現状を知ることができて、環境保全の意識を高められたと思います。

国内

【プロフィール】

一級河川筑後川水系宝満川に合流する宝珠川は、里山を流れる全長約5kmの河川です。1980年代、中流域で福岡・久留米商業圏のベッドタウンとして宅地造成が始まり都市化が進みました。人口増と共に宝珠川へのゴミ投棄や周辺道路へのポイ捨てが増加しました。子どものころ宝珠川で川遊びをした区民有志が汚れを憂い、2006年から清掃活動を始めました。活動を継続する中で粗大ゴミは減少しペットボトル、レジ袋などの生活ゴミが増加しています。きれいな環境下では投棄ゴミは少ないと言われます。川面に泳ぐ錦鯉、春はナノハナとサクラ、秋はヒガンバナが咲く土手、年中花が咲く四つの花壇。将来を見つめ子どもたちと共に自然が傍にある住環境を目指し活動を続けています。

●事業活動・内容

【四ヶ所の花壇の管理運営】

西鉄大牟田線津古駅踏切、八龍神社境内、小郡市福祉バス津古バス停、県道582号線側道に花壇を設置しています。津古駅近くの八龍神社、踏切花壇は乗降客の通り道でタバコの吸い殻が散乱していました。バス停花壇は宝珠川沿いで圃場整備の番外地で雑草に覆われていました。県道花壇は拡幅予定地で雑草が繁り、車からのポイ捨てが多い場所でした。県道にはマリーゴールドとコスモス、他の花壇は夏はサルビア、トレンシア、冬はパンジー、ピオラなどを植えています。



県道花壇の手入れ、除草作業

●2017年度の活動

津古の住環境に溶け込む宝珠川の清流再生と維持

- 活動地域
福岡県小郡市
- 助成期間(年) **1** **2** **3**

宝珠川への粗大ゴミ投棄、周辺道路へのポイ捨てなど、住環境の悪化が進む中、「川遊びができる清流」を取り戻そうと河川清掃、錦鯉放流、周辺への植花を進めています。本年度は、清掃3回、錦鯉放流2回、植花2回の合計7回の活動を行いました。特に初めて実施したヒガンバナ球根の植え付けでは、宝珠川土手に1,000球の球根を植え付けることができました。

将来にわたって活動を継続するため、一昨年から保護者を含む子ども会との連携を進めています。一般参加者のうち66名が子ども会です。活動に興味を持ってくれた父親もいて、活動の後継者になってくれたらと期待しています。活動には津古区に隣接する筑紫野市からも8名の参加者があり、上流への活動拡大の希望が出ました。また佐賀県基山町から2名の新規会員も加入し、プロジェクトは良いスタートを切ることができました。

- 活動回数 / 7回
- 活動参加人数 / 209人
- うちTOTOGグループ社員 / 12人
- ゴミの回収量 / 150kg
- 植樹 / 1,000本 (ヒガンバナ)
- 整備面積 / 120㎡

●現地の声

・タネ植えの印を付けるのが大変だったけど、楽しかったです。
・花が咲くのが楽しみです。きれいに並んでいたらいいな。
・何より、自然を通して地域の皆さんとお話をさせていただいたことが良かった。
子どもたちに“小さな仕事”と“達成感”を与えていただいたことは、子どもたちにとって大きな心の栄養になったと思います。



ポット苗定植、会員が植え方を説明中



宝珠川土手に球根を植付け



宝珠川清掃

国内

【プロフィール】

大分県中津市の沿岸に広がる中津干潟は、瀬戸内海随一の広大な干潟が広がっています。ひと昔前まで、おかずに捕りに来る人や焚き付けに松葉を拾う子ども、春秋の浜遠足などで賑わっていた干潟ですが、社会が豊かになるにつれ足が遠のき、忘れられた存在になっていました。1999年、初めて干潟に足を踏み入れたとき、小さなカブトガニを見つけました。「この感動を多くの子どもたちに伝え、自分たちの住む町の自然をもう一度見つめ直したい」そんな思いを込めて活動を開始しました。世界に誇る中津干潟の自然環境と“海と人のよりよい関係”を次世代へと伝えるため、また多くの人々の理解と共感を得るため、試行錯誤しながら日々取り組んでいます。

●事業活動・内容

- ・小中学校における環境学習指導(授業とフィールドワーク/市内外18校)
- ・生物調査(カブトガニ・渡り鳥・底生生物など)
- ・水産振興(おさかなホネホネ教室・かざり海苔巻き教室・海苔すき体験・干ものづくり教室)
- ・ベッコウトンボ保護活動(観察会・生息地環境維持活動)
- ・中津干潟における大学の調査研究活動のサポート
- ・「ガタガタ通信」発行・「大新田の浜と松林の物語」「松管理マニュアル」発行
- ・研究者とNPOによるネットワーク「中津干潟アカデミア」立ち上げと研究発表会の開催



中津干潟観察会

●2017年度の活動

生きもの、子ども、自然が元気な中津干潟みらいづくり活動

- 活動地域
大分県中津市
- 助成期間(年) **1** **2** **3**

瀬戸内海最大面積を誇り、生物多様性に富む中津干潟の保全には、市民の環境意識の醸成と若手人材の育成が課題です。これらを解決し、NPO活動の基盤強化を図るため、①市民向け実践活動「ビーチクリーンと松林景観再生活動」、②子ども向け実践活動「生物観察会と夏休みワークショップ開催」、③啓発と人材育成「活動拠点であるひがたらほの充実・環境学習プログラム制作・大学生との協働」を実施しました。①では800人を超える参加者により、海岸の景観が向上し、地域住民から評価を得ています。②では多くの子どもたちが参加し、中でも「中津の海の絵コンテスト」に800点を超える作品が寄せられました。③では生物の生態を知る映像の作成や環境学習の実践活動ビデオの公開などを行いました。また、複数の大学との連携が決まり、次年度より学生も活動に参加する予定です。

- 活動回数 / 16回
- 活動参加人数 / 2,302人
- うちTOTOGグループ社員 / 460人
- ゴミの回収量 / 1,445kg
- 整備面積 / 6,500㎡

●現地の声

・子どもが生物に興味があるので、夏休みに活動できる場所や行事があるのはうれしい。(夏休みワークショップ)

・暑かったけれども楽しかった。(干潟観察会)

・久しぶりに海岸に来たら、松林が昔のようにきれいになっていた。(ビーチクリーン)

・孫をこうして松林で遊ばせることができるなんてウソのようだ。(浜遠足)



アカテガニ観察会



底曳き網の生きもの観察



松林再生活動

国内

【プロフィール】

関の江海岸は別府市の中で唯一自然の砂浜がある海岸です。昔から景観が素晴らしく、海岸に自生する数種類の植物は保護植物に指定されています。ところが近年、ゴミや木などが大量に打ち上げられ、その美しい景観が損なわれているのが現状です。そこで私たちは「多くの地域住民とともに環境の保全と整備に継続的に取り組み、環境に対する意識を高め、自然豊かで美しく、みんなから愛される関の江海岸にする」という目標を持って活動しています。これまで地域住民、特に立命館アジア太平洋大学の「環境サークル」のメンバーとも連携して環境整備作業に取り組んできました。また海と川は一体であることから、関の江海岸とつながっている冷川の環境整備もあわせて進めています。

●事業活動・内容

- ①会員および一般ボランティアによる冷川・温水川の清掃活動、関の江海岸の保護草の除草（月1回）
- ②会員による漂着ゴミの回収（年3回）
- ③会員および公募による一般ボランティアによる大規模な海岸清掃イベント実施（年2回）
- ④他郡・市の環境団体との交流会、研修会の実施
- ⑤小学校における環境問題に関する出前授業



TOYOTA 主催の清掃活動

●2017年度の活動

関の江海岸の自然を守る会

- 活動地域 大分県別府市
- 助成期間(年) 1 2 3

「温水川下流の水質向上」「砂浜の生物の保護・育成」「海岸の美観保持」「地域住民の環境意識の向上」を目的に、関の江海岸およびその周辺の環境整備に取り組んできました。

今年度は、多くの人の参加により、大量のゴミ・漂着物を除去し、海岸はかなり整備されました。また冷川の整備についても精力的に取り組まれました。一般公募による大規模なボランティア活動も予定どおり開催し、さらに夏休みには、初めての試みである小学生参加による「環境学習」のイベントを関の江海岸で実施することができました。これらの活動を通じて、地域住民の環境意識も向上してきていると思います。しかし、当初の目標であった「温水川下流の環境整備」については、予想以上にヘドロが堆積していたことから作業を進められず、方針を変更せざるを得ない結果となりました。

- 活動回数 / 19回
- 活動参加人数 / 461人
- うちTOTOグループ社員 / 78人
- ゴミの回収量 / 1,800kg
- 植樹 / 菜の花
- 整備面積 / 6,500㎡

現地の声

- ・海岸に多くのゴミなどが打ち寄せられていることに驚きました。
- ・多くのボランティアの人たちと汗を流し、成果があげられたことに達成感がありました。
- ・知らない人とも関わりができたのはうれしいです。



小学生対象の海岸環境学習



関の江海岸清掃①



関の江海岸清掃②

国内

【プロフィール】

様々な人間活動の変化により里山・里海が荒廃し、生物多様性は急速に失われ、人類の生存基盤である生態系の危機が迫りつつあります。そのため、地域の自然環境の保全活動を通じ、自然と共生した地域社会の構築を図ることが急務の課題です。

自然と共生した持続可能な住み良い郷土を次の世代に伝承するために、国民や一般企業等に対して様々な環境保全に関する情報提供や広報活動を行い、保全・保護活動を実施し、もって広く公益に寄与することを主たる目的として当法人は設立されました。

●事業活動・内容

- ・渚の交番推進事業
渚の交番施設および田ノ浦サテライトの通年運営。各施設において実施する教育体験プログラム等の企画・運営。
- ・特定外来種アライグマの生態系への影響評価のための統計的調査
センサーカメラによる分布エリアの調査。地域住民等への講習会の開催。防除対策の検討および実施。
- ・未来へつなぐふるさとプロジェクト
ウミガメの保全体験と放流、海の環境を考える動機作り、海ゴミ問題を考えるワークショップを大分県内4ヶ所で開催。



シーカヤック体験

●2017年度の活動

海浜生態系再生プロジェクト～命をつなぐ海岸の復活をめざして～

- 活動地域 大分県佐伯市
- 助成期間(年) 1 2 3

大分県最大のアカウミガメの産卵地であった間越海岸は、漁港整備や海砂採取の影響で砂浜が減少し、近年アカウミガメの産卵数が激減しています。

本事業では防砂垣による養浜活動と海岸保全活動を実施し、海浜生態系の再生、ウミガメが安心して産卵できる環境の復活を目指しました。

活動の中では、海岸に漂着したゴミの再利用イベントやNPO附属施設において保護しているウミガメを通じて環境保全啓発イベントを実施しました。ご参加いただいた多くの方々に、ウミガメの生態やウミガメを取り巻く環境を学び、自然の大切さを改めて考えることのできる有意義な時間を提供できたと思います。間近でウミガメと触れ合った子どもたちの楽しそうな笑顔は忘れられません。命の尊さや素晴らしさを未来へつないでいく活動にもなったかと思っています。

地域住民と協働で自然環境を守っていく活動を引き続き実施していきます。

- 活動回数 / 4回
- 活動参加人数 / 134人
- うちTOTOグループ社員 / 20人
- ゴミの回収量 / 500kg
- 防砂垣の設置 / 1km
- 保安林下草刈り / 1km
- 海浜の整備 / 600㎡

現地の声

実際に環境保全活動しているスタッフから直接お話を聞いたり、一緒に活動したりすることで、活動への興味がわき、これからも応援していこうと感じました。同じ目標に向かい、世代を超えた取り組みができたことは非常に有意義でした。ウミガメを実際に見ることができ、ウミガメのためにもこの砂浜を守っていききたいと思いました。



アカウミガメの産卵地の間越海岸をビーチクリーン



定置網にかかり保護したウミガメの放流



砂の飛散を防ぐための竹垣を設置

国内

【プロフィール】

スキムボーディングというスポーツが日本人に親しまれるようになって20年近く続括する団体がない状況がつついていました。そこで2012年日本におけるスキムボード界を統括し、代表する団体として、またスポーツとして確立し、スキムボードの普及振興を図り、もって国民の心身の健全な発達に寄与すること、自然環境に携わる組織として、持続的な環境保護と事故防止などを目的とし、一般社団法人日本スキムボード協会を設立しました。

●事業活動・内容

- eco プロジェクト：ビーチ、海岸の持続的・継続的な環境保全活動
活動を通して、現在利用している海岸や周辺地域の現状把握と地域住民との交流、環境意識の向上
- SKIMFES：多くの人たちにスキムボーディングを知ってもらうためのスポーツ教室、無料体験会、スポーツを楽しむ、生涯スポーツ、レジャースポーツの選択肢の一つとして提案していく活動
- 全日本スキムボード選手権大会
全国規模のスキムボーダーの交流促進、技術の向上、マリンスポーツを通じて自然環境保護への理解を広め、競技を通してスポーツマンとしての人間性向上を図る
- 指導者講習会
スキムボードに関わる選択肢を増やすことで、多くのスキムボーダーが様々な場面でスキムボードに関わることができる環境を目指す
- 小冊子「ルール＆マナー」の全国無料配布
- J.S.A 会員 SKIMUCLUB：メンバーズ会員制度の運営



全日本選手権

●2017年度の活動

ecoプロジェクト宮崎～アカウミガメとの共存

- 活動地域
宮崎県宮崎市
- 助成期間(年) **1** **2** **3**

宮崎県一ツ葉海岸は全国でも有数のアカウミガメの産卵地ですが、まだ認知度は低く、詳しいことを知らない県民が多いです。近年は減少傾向にあるアカウミガメですが、その主な原因は漂着ゴミであり、子ガメが海に戻る際の障害や親ガメの誤飲につながっています。少しでも多くの人にこの地が産卵地であることやアカウミガメについて知ってもらうために、産卵期前から毎月一回定期海岸清掃を実施しました。また産卵期にはウミガメ観察会を開催しています。観察会は前年度より時期を早め、回数を増やし、場所も変えて4回開催しました。ウミガメを見ることはできませんでしたが、多くの足跡や卵の殻を別の場所でも確認し、上陸環境を保全する活動を行いました。

- 活動回数 / 15回
- 活動参加人数 / 271人
- うちTOTOグループ社員 / 22人
- ゴミの回収量 / 636kg

現地の声

- ・観察会に参加してウミガメは見れなかったが、足跡など初めてみて楽しかったです。
- ・野生動物研究会の方の写真資料を使って説明してくれたのが子どもにも分かりやすかったです。



eco プロジェクト 2017



ビーチクリーン



孵化目印

国内

【プロフィール】

私たちの団体は、技術士という各技術分野の専門資格を有し、その豊富な知識と高度な専門技術を活用して、公益の確保と豊かであるおののある地域づくりに貢献することを目的としています。宮崎県内に在住する者が中心となり、不特定の市民・団体等を対象に、「ひとづくり」、「まちづくり」、「環境の保全」、「災害救援・防止の支援」等の活動に、高い倫理観とボランティア精神で取り組んでいます。今回の「山崎川自然リカバリープロジェクト」は、地域住民、学校が一体となって進めている活動を、技術士の専門性とマンパワーの両面から支援するものです。

●事業活動・内容

- 宮崎の大地の履歴を探る
宮崎平野を題材に、郷土地史の専門家をナビゲーターに迎え、地域の歴史や失われた地名などを紐解きながら、県庁周辺の地形を実際に踏査し、様々な角度から考察を加えます。東日本大震災、熊本地震等を踏まえ、宮崎平野の地形・地質あるいは市街地の形成過程で失われていった地名などを現地を踏査しながら、市民とともに発見し、その理由を学びます。
- 環境の哲学サロン ～高濃度放射性廃棄物の地層処分を考える～
ゲストスピーカーに社会的合意形成の第一人者で、哲学者でもある桑子敏雄氏(元東京工業大学大学院教授)を迎え、NUMO職員による講義も踏まえ、市民向けの討論を行い、参加者の「所作」「選択」を促していきます。



環境の哲学サロン 参加者グループ討議

●2017年度の活動

山崎川自然リカバリープロジェクト

- 活動地域
宮崎県宮崎市
- 助成期間(年) **1**

山崎川の水生生物の多様性の向上、地域住民の憩いの場、隣接する宮崎市立本郷小学校、本郷中学校の総合学習の場としての支援活動を地域住民との協働で行いました。河川浄化、河川周辺の草刈りを年間3回、小学生の総合学習の場としての座学3回、河川での水質調査・生物調査を1回実施しました。中学生による水質調査も3回実施し、市民団体による水質調査は2回実施して報告書にまとめていただきました。今年度初めての試みとして、コスモスの咲く時期に、コスモス鑑賞会、舞踊、屋台の出店等で「夜祭」を開催しました。これらの活動が評価され、本郷小学校が、宮崎の地方局であるMRT放送が環境保護に取り組む個人や団体を表彰する「2017年度MRT環境賞」の教育学習部門優秀賞を受賞しました。活動により山崎川は、日常の散歩、ホテル鑑賞、夜祭、小中学校の環境教育など、地域住民にとっての有益な場となっています。

- 活動回数 / 22 (内打合せ 10回)
- 活動参加人数 / 900人
- うちTOTOグループ社員 / 6人
- 整備面積 / 10,000㎡

現地の声

- ・機材の支援も受けてありがたかったです。
- ・学校の環境学習をサポートして、子どもたちの喜ぶ顔を見られてうれしかったです。
- ・夜祭は楽しかったです。
- ・新興住宅地で、夏祭りもなかなか実施されない中、夜祭で地域一体になれてよかったです。



環境学習を行う小学生



堤防(遊歩道)にコスモスの種を蒔く小学生



水質・生物調査を行う中学生

海外

[プロフィール]

在留日系人の支援活動を行っていた元兵士・土居潤一郎氏が、「日本とフィリピンの両国のためになる活動がしたい」と代表・後藤順久に声をかけ、マングローブの植林を始めることになりました。植林活動を通して、両国の友好を深め、友情と共に苗木を育てていくというのがモットーです。1997年、ネグロス島シライ市で始めたマングローブの植林活動は、ネグロス島の各地やボホール島に広がりを見せています。マングローブの植林だけでなく、山地での植林や環境教育、エコツーリズム、フェアトレード、有機農業、ゴミの減量化などの住民の生計向上支援など活動の幅が広がっています。「日本人とフィリピン人が共に環境を守る活動を継続する」という活動方針に沿っています。

●事業活動・内容

マングローブの植林を軸に、さまざまな活動を行ってきました。マングローブ林の景観を利用したエコツーリズム、沿岸部の清掃活動、地元住民の環境啓発活動、農業・畜産を支援する生計向上支援活動、フェアトレード商品販売などです。

草の根の国際協力事業を実施していきことができる若者を育てるために国際協力研修センターを設立し、毎年40名以上の生徒を受け入れています。

第9回TOTO水環境基金の助成を受け、パタグ村バソグワン地区に給水タンクと配水設備を設置しました。高原野菜に適した土地でありながら、灌漑設備がないため栽培を行うことができませんでしたが、水をくみ上げ、野菜を生産し、人々が森と共存しながら生活ができるようになりました。



高地で開始したイチゴ栽培が軌道に乗った

●2017年度の活動

水源の森を守り、学校・地域に水を届けよう

- 活動地域
フィリピン 西ネグロス州シライ市、ギバラオン村シバト地区
- 助成期間(年) 1 2 3

当団体が主催して本事業に関する定例の会議を毎月実施しました。また、当団体の企画によりアンケート方式で住民215世帯に対して水利用に関する意識調査・分析を行いました。そのデータを活用し、役所と共に住民説明会を開催し、本事業によって建設する配水システムの建設について、さらに、この建設にあたっては住民(10名)が主体的に労働に従事することについての住民の同意を得ました。

また、Aid Foundationの支援のもと、地域の地形などを詳細に分析し、配水システムの構築が可能であることを明らかにしました。システムでつなぐ学校・コミュニティセンターと住宅までのルーティング、タンクの大きさ、ランポンの仕様などの詳細設計を行うとともに、住民と一緒に材料等の購入やランポン(※)業者との打ち合わせを実施しました。

※ランポン=電気を使わずに水をくみ上げるポンプ



SAFA ミーティングで本事業の打合せ



水利用に関するアンケート調査の説明



水タンクを運ぶ水牛のルートの踏査

- 活動回数 / 13 回
- 活動参加人数 / 128 人
- ランポン / 1 基
- 給配水施設 / 1 箇所
- 対象者数 / 1,500 人

現地の声

学校の教員たちから、給配水システムに対する期待が大きく、いつ完成するのか、一日でも早く水を利用したいという声が寄せられています。農家からは生活用水だけでなく、農業への灌漑用水への利用の声が寄せられています。

海外

[プロフィール]

当法人は、子どもの権利を推進し、貧困や差別のない社会を実現するために世界70カ国以上で活動する国際NGO法人プランの一員です。途上国における「貧困」の問題は根が深く、さまざまな要因が絡み合っているため、抜け出すことは容易ではありません。プランはこれまでの経験から、「教育」「保健」「性と生殖に関する健康と権利」「水と衛生」「家計の安定」「子どもの参加」「子どもの保護」「緊急支援」の8つの分野の改善を重視して活動をしています。

●事業活動・内容

- ・ベトナム ラウチャウ省、コントウム省:少数民族の幼稚園・小学校教育改善プロジェクト
- ・バングラデシュ ダッカ市内:災害リスク軽減への子ども参加型の取り組み
- ・ブルキナファソ サウスウエスト地方:インクルージョン教育プロジェクト
- ・ホンジュラス インティブカ県:ジェンダー平等推進プロジェクト
- ・日本 熊本県:熊本地震緊急支援



ペア学習で支え合うようになった子どもたち

●2017年度の活動

ベトナムにおける衛生習慣改善プロジェクト

- 活動地域
ベトナム
コントウム省コンブロン県
- 助成期間(年) 1

ベトナム中部コントウム省コンブロン県内の最貧困地域の5コミュニティでは、多くの世帯に衛生的なトイレがなく、衛生習慣の知識がない住民(多くは山岳少数民族)は屋外排泄を行っており、その結果、子どもたちは感染症に罹患する危険に常にさらされていました。こうした不衛生な状況を改善するため、衛生トレーニングを実施。衛生的で健康的な生活を過ごすには世帯トイレが欠かせないことを啓発しました。加えて、トイレ設置に必要な技術指導を行い、住民たちに自らの力でトイレが設置できること知ってもらい、彼らのやる気を喚起しました。住民たちは、地元で手に入られる資材を集め、トイレ用の穴を掘るなど、主体的にトイレ設置に関わりました。その結果、当事業では合計で853の世帯トイレを設置することができました。

- 活動回数 / 90 回
- 活動参加人数 / 3,835 人
- うちTOTOグループ社員 / 6 人
- 世帯トイレ設置支援 / 227 世帯
- 世帯トイレ設置補助 / 626 世帯
- 衛生教育 / 2,600 人
- 対象者数 / 5,626 人

現地の声

私は県の中心にある寄宿学校に通っています。これまで学校にはトイレがあるけれど、実家にはトイレがありませんでした。週末に実家に帰っても、恥ずかしくて友だちを家に呼べませんでした。でも今は家にトイレがあるので、友だちを家に呼べるようになりました。とても嬉しいです。



衛生トレーニング後に石鹸を使った手洗いを実践する子ども



ベトナムにおける衛生トレーニングの参加者たち



当事業により設置された世帯トイレの外観

World Assistance for Cambodia and Japan Relief for Cambodia

[活動国・地域] カンボジア [代表者] バーナード・クリッシャー

海外

[プロフィール]

1991年パリ和平条約協定の締結後、ジャーナリストでもある代表バーナード・クリッシャーが故シアンク元国王の要請を受け、内戦で荒廃したカンボジアの国の復興・再建に協力するために1993年に「ジャパン・リリーフ・フォー・カンボジア」を設立。カンボジアの貧しい子どもや人々の為、教育、保健衛生、農村開発、技術分野を援助しているNGOです。設立当初より、カンボジア プノンペンに、現地事務所を設け、現地人スタッフを雇用し運営しています。カンボジア政府により非営利団体として認められています。

●事業活動・内容

主たる活動として、世界銀行やアジア開発銀行からの助成金と企業・個人等からの寄付金を募り、カンボジア23の州と1つの特別市に、小中学校560校の校舎を建設し政府に寄贈し、公立学校として運営されています。建設した学校にドナーの支援で英語・コンピュータ教師を派遣し、奨学金・給食システム・図書館の寄贈・井戸・浄水器の設置等の活動をしています。他に孤児院や、病院、プレブピア州・ラタナキリ州に診療所を開設し、無償で100万人以上の治療を行っています。



小学校の教室風景

●2017年度の活動

カンボジア農村地域の植樹活動及び環境教育

●活動地域
カンボジア コンボントム州、オドン
ミエンチェイ州、バンテアイミエン州
●助成期間(年) 1 2 3

カンボジアの農村地域に当団体が寄贈した小中学校で環境教育を行い、井戸、トイレ、ため池の新規設置および使用できない井戸・トイレの修理、植樹活動、苗木づくり等を行いました。農村地域の村では、水道・ガス・電気・トイレなどの生活インフラが整っておらず、上下水道はほとんど整備されていません。井戸の水を主としてため池も多く利用しています。現在、伐採や自然要因だけでなく、農業で水を多く使用し始め、井戸の水位が下がってきています。また家庭でのトイレの使用率も低い国のひとつです。トイレの必要性を学び、衛生の向上、資源や環境保護の大切さについて、クメール語で作成した資料で環境教育を行いました。実際に苗木を作成したり、木を植える等を現地教師とともに学校の行事として活動しました。



小学校に新規井戸設置



中学校のトイレを修繕後、清掃

- 活動回数 / 52回
- 活動参加人数 / 5,000人
- 植樹 / 6,646本 (モリンガ・マンゴー・オレンジ・ジャックフルーツ)
- 設備 / ため池 1箇所、貯水槽 3基、トイレ 21箇所、井戸 新規 1基、修理 12基
- 衛生教育 / 30校 (5,000人)
- 対象者数 / 8,976人

現地の声

・学校の井戸が直ってよかったです。水が使えます。お水が学校で飲めます。(小学校5年生女子)
 ・トイレを直してくれてありがとうございました。(小学校教師)
 ・モリンガを知って、家で植えたいです。(中学校1年生)
 ・村の木は皆きってしまったのでほとんどなくなりました。家には1本も木がないのでもらったマンゴーの木を植えて、実がなるのが楽しみです。(幼稚園教師)
 ・木がなく、父の仕事がなくなり、もっと遠くに引っ越さないとはいけません。学校にいけません。(父が炭焼の家の小学生)
 ・地域の校長先生が集まる会議の際に、植樹活動のことを聞いた別の校長先生より、依頼があり、ぜひ自分の学校でも行ってほしいと依頼がきました。

認定特定非営利活動法人 アジアチャイルドサポート

[活動国・地域] 7カ国 [代表者] 池間 哲郎

海外

[プロフィール]

代表理事である池間が、フィリピンのスモークマウンテンで出会った少女の「わたしの夢は大人になるまで生きることです」という言葉に衝撃を受け、生涯子どもたちを支える活動を本気でやっていると決意し、個人での活動を開始しました。団体として発足してからは「過酷な環境の中でも懸命に生きている開発途上国の子どもたちに対して、平和で安らかに暮らして行くことを願い支援を行い、国際協力を通じた日本の青少年健全育成に貢献すること」を理念に掲げ、日本を含めた10ヶ国で支援活動を行っています。

●事業活動・内容

- ・ミャンマー：村として認可してもらえない小学校校舎の改修工事支援および教師雇用支援
- ・ミャンマー：ハンセン病患者保護施設への継続支援として、自立のために建設した縫製工場へ学生服製作発注(学生服は小学校へ寄贈しています)
- ・ネパール：栄養失調状態の貧困地域の子どものための学校給食支援
- ・ネパール：HIVに感染し、行き場を失った女性や子どもの保護施設の運営支援
- ・スリランカ・カンボジア・ラオス：貧困家庭の子どもたちへの奨学金支援
- ・日本 宮城県石巻市茨浜：津波で思い出の写真を全て失った被災者の方々のため、被害を免れた記録写真などを収録したDVDを製作・寄贈する思い出プロジェクト支援
- ・その他、命の泉事業、全国各地での講演事業他



給食時間の子どもたち

●2017年度の活動

「水で支える暮らし」と「未来へつなげる水環境」

●活動地域
ミャンマー エヤワディ地域シャタウン
ヤン地区チャウンター村落群ウド村
●助成期間(年) 1 2 3

ミャンマー連邦共和国ウド村では、インフラ整備が手付かずだけでなく、海が近いということも災いし、水を取り巻く環境は悪化の一途を辿っており、深刻な問題となっていました。

日々の生活にも困窮している村人には到底解決できないため、本プロジェクトにおいて、「汚染された水を口にするこでの感染症の抑制」「枯渇することのない水源の確保」「屋外で排泄することでの不衛生な環境の改善」を図るため、発電機付き大型深井戸、トイレ、水回り設備の建設を行いました。

設備が完成し、集落に設置した水場を開放する時には村の人たちが集まり、潤沢で安全な水源として喜ばれています。学校敷地に建設したトイレでは衛生教育を行い、自宅にもトイレが欲しいという声も聞かれ、普及への第一歩となっています。



村の小学校に通う子どもたち



水を汲みに村人が集まる水場

- 活動回数 / 10回
- 活動参加人数 / 182人
- 設備 / 発電機付大型深井戸 1基、トイレ 1基、水道設備 6箇所
- 衛生教育 / 83人
- 対象者数 / 800人

現地の声

・遠い場所まで水を探しに行っていたので、毎年のように乾期に水がなくなることが大きな悩みでした。これからは水の心配をすることがなくなるので安心しています。本当にありがとうございました。(男性)
 ・小さな子に安心して水を飲ませたり、体を洗ってあげられるようになりました。(女性)
 ・水ももちろんですが、発電機のおかげで電灯が点き、夜も内職ができるようになりました。(女性)
 ・手を洗うための水に驚いた。(子どもたち)



初めての手洗いに喜び集まる子どもたち

海外

[プロフィール]

グジャラート州に本社を置く化学物質メーカーであるDeepakグループのCSRを担うため、ナンデサリ工業地区の労働者およびその家族に医療設備を提供することを目指して、1982年に設立された非営利団体です。その後、インド全土に活動を拡大しています。設立以来、主に貧しい家庭の女性および子どもに対する母子医療サービスに取り組んできましたが、現在では、生計、栄養、医療、育児、教育、能力開発・訓練、女性のエンパワーメント、天然資源管理ベースの生計等、幅広いセクターで活動しています。

●事業活動・内容

- ・女性団体およびセルフ・ヘルプ・グループ(SHG)の活動推進、女性酪農協同組合設立、指導者育成
- ・官民協働プロジェクトの実施
全国農業農村開発銀行プロジェクトによる、ファーマーズ・プロデューサー・グループ設立
- 移動健康ユニットの導入
- ・企業のCSR活動の実施
ハロル・カロールブロックの水資源管理 (TOTO)
栄養価の高い食事を学童に提供する女性の訓練 (RPGサクシャム)
非正規の就学前教育、栄養価の高い食品補助、健康・栄養検査、医療についての保健所への照会サービスの提供 (RPGジェヴァン)
移動健康ユニットの導入 (HNG)
- ・気候変動対策介入活動



SHG がキャンパスで、栄養価の高い食料製品を販売

●2017年度の活動

Water Conservation (水環境の保全)

●活動地域

インド グジャラート州
ハロル・カロール地区

●助成期間(年) 1 2 3

1年で4ヶ月間しか地下水を利用することができないネスダ村に2つの農業池を新設する予定でしたが、現地の状況から判断し、既存のカロール農業池の面積および深さを改修して容量を増やし、併せて農地への水分配のための灌漑システムを設置することとしました。この農業池の完成による利用可能な農業用水の増加および周辺地域の地下水の水位上昇は地域住民に大きな恩恵をもたらしました。

このカロール農業池近隣のネスダ村、タルワダ村においては、水利用管理に関するコミュニティ基盤を構築するために、3つの女性セルフ・ヘルプ・グループを立ち上げました。月例会合や啓蒙トレーニングを行うことによって、住民自らが水を管理し、有効利用していく能力の向上を図っています。

また、カロール農業池周りや近くの学校・寺院には400本の植栽を行い、住民によって緑の環境の維持・管理が行われています。



水に関する啓蒙のための農民トレーニング



Nesda 村、カロール農業池は、その容量を 9900 平方メートルに増やして改修

- 活動回数 / 9 回
- 活動参加人数 / 100 人
- ゴミの回収量 / 6kg
- 植樹 / 400 本(ニーム、ココナッツ、グアバ他)
- 学校 / 1 箇所
- ため池の改修 / 1 箇所
- 寺院の美化 / 1 箇所
- 整備 / 571㎡
- 対象者数 / 120 人

現地の声

改修する農業池住宅地と農地両方に近いところにある農業池が改修されたことで、住民と農業者の双方に利益をもたらすことができました。

2017年雨季は非常に少ない降水量だったのですが、池の水の蓄積と吸収の関係が良好であるため、予想以上に地下水の水位が高まり、以前はディワリ(インド正月:10~11月頃)までしか利用できなかったネスダ村の井戸は翌年1月まで水で満たされ、水の利用率が向上しました。

海外

[プロフィール]

世界では、現在8億4,400万人が清潔な水を、23億人が適切な衛生設備を使うことができません。不適切な水と衛生による下痢が原因で、1日約800人の子どもたちが命を落としています。ウォーターエイドは、1981年に英国で設立された水・衛生分野専門のNGOです。2030年までにすべての人がすべての場所で安全な水と衛生を利用できることをビジョンとして掲げており、より多くの人々に水・衛生を届けるために、2013年に日本法人である特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパンを設立しました。水・衛生プロジェクト、アドボカシーに取り組むほか、日本での情報発信・開発教育にも力を入れています。

●事業活動・内容

- ・インド マテイヤ・プラデシュ州:月経衛生プロジェクトを実施しました。母子保健センターの職員を対象にトレーニングを行い、職員が主体となって地域の女性・女の子たちに月経衛生教育を行う体制を作りました。
- ・東ティモール:リキシャ県とマヌファヒ県において自然流下方式の給水設備を設置したほか、野外排泄をなくすワークショップを行い、住民によるトイレ設置を促進しました。
- ・日本:スピーカークラブ(水・衛生に関する出前授業を行うボランティア)によるイベント・学校での出前授業、墨田区水の循環講座の企画運営を通じて、途上国の水・衛生に関する情報発信に取り組みました。



衛生教育について学ぶ女の子たち

●2017年度の活動

インド・テランガナ州農村部における水質管理・衛生プロジェクト

●活動地域

インド テランガナ州ニザーマー
バード県、カマレディ県

●助成期間(年) 1

本プロジェクト実施地域は、給水設備があまり整備されておらず、フツ化物による地下水汚染が深刻です。さらにトイレのない家が多く野外排泄が行われているため、住民は汚染された水を使うしかありません。インドでは本来、各村の村水衛生委員会が給水設備の維持管理・衛生改善を担うことになっているものの、多くの村水衛生委員会は機能していません。本プロジェクトでは、村水衛生委員会を対象に水質検査や給水設備の維持管理に関する研修を実施し、村水衛生委員会が責任を持って、住民と連携しながら給水設備の水質検査や修復・設置に取り組む体制を構築しました。また、住民を対象に野外排泄をなくすためのワークショップを実施し、住民が主体的にトイレの設置を進めており、野外排泄が確実に減っています。学校、母子保健センター等でも職員を対象とした研修を実施しました。これらの施設の給水設備・トイレも適切に維持管理が行われるようになりました。

- 設備 / モデル展示用バリアフリートイレ1基、
モデル展示用給水設備1基、
モデル用地下水涵養設備1基、
モデル用学校の手洗い設備3基
- 衛生教育 / 25,195人
- 対象者数 / 25,195人

現地の声

以前はトイレへの関心がまったくなく、人々は新しく建てる家さえトイレを設置しませんでした。今では、貧困家庭の住民も、喜んでトイレを設置し、使い続けています。(イソロジワディ村の男性)



第1回水質管理トレーニング



イソロジワディ村の村水衛生委員会メンバー



新しく設置されたアクセシブルトイレ

海外

[プロフィール]

代表である川原尚行が外務省医務官としてスーダン共和国に赴任していたときに、政治事情により国際社会からの援助が途絶え、著しく低い健康水準での生活を余儀なくされている人々を助けるために、外務省を辞して、「医者がいない村に医療を届ける」という活動指針のもと2006年5月に設立した団体です。スーダン共和国の無医村地域を中心に、2万人の住民がいる村々を月に一度訪れる巡回診療、安定した医療を行うための診療所建設、清浄で安全な水を届ける水事業の他、国連WFPと協働して栄養改善事業を実施中です。

●事業活動・内容

[医療支援活動]

ハルツーム州において、無医村地域を対象とする巡回診療を実施し、約2,100kmの砂漠地帯に点在する村の住民に医療サービスを提供しました。また同エリア内に恒常的な医療拠点として3棟の診療所を建設しました。

[健康教育活動]

ハルツーム州において、病気予防や健康維持についての啓発イベントを実施しました。また、「下痢を予防するには」というテーマで手洗いの重要性を説くなど、衛生教育も行いました。

[母子保健活動]

北コルドファン州において、国連WFPおよび地元NGOと協働し、妊産婦・授乳婦および乳幼児を対象とする栄養改善事業を実施。簡易的な栄養状態の測定によって栄養不良の母子を抽出し、継続的に栄養補助剤を配布しました。



健康教育活動の様子

●2017年度の活動

水衛生改善を通じた、スーダンでのコミュニティ開発事業

- 活動地域
スーダン共和国 ハルツーム州、
北コルドファン州
- 助成期間(年) **1** **2**

スーダンでは水衛生の不備が、健康問題、教育参加機会の減少の根源になっており、井戸および給水所の建設とヘルスプロモーションを通して、水衛生を改善し、さらに管理能力向上の支援を行うことで、地域のコミュニティ開発を目指しています。そのために、地質調査、井戸掘削、給水所建設、ヘルスプロモーション、水運営委員会の結成を実施すべく、当団体が巡回診療を行っている地域の中でも水衛生の状況が悪いワッド・シュウエイン村において、地下水源の調査を実施しました。しかしながら、ワッド・シュウエイン村の地下には水源がなく、村周辺まで範囲を広げ、井戸掘削の可能性を調査、あわせて周辺から村までのパイプラインの敷設についての調査を継続しています(調査実施時期:2018年1月~3月、調査実施地点:8地点)。

また、首都から300km以上離れているため、インフラ整備が遅れている北コルドファン州においても井戸掘削に向け、準備を進めています。



巡回診療チーム (撮影:内藤順司)



健康教育活動の様子 (撮影:内藤順司)



住民とともに (撮影:内藤順司)

海外

[プロフィール]

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、1995年に当時12歳のカナダの少年によって貧困や搾取などの過酷な環境から子どもを解放することを目的に設立された「Free The Children」を母体に1999年から活動を始めた団体です。

誰一人取り残されず、全ての人々が尊重される社会を創ることを目指し、開発途上国の貧困地域の国際協力活動と並行して日本の子どもや若者が国内外の問題に取り組み、変化を起こす活動家になるようサポートしています。今までにフリー・ザ・チルドレンとして9か国の開発途上国を対象に1,000校以上の学校を建て、毎日20万人以上の子どもが教育を受けられるようになり、100万人以上に安全な水を提供することができました。現在、日本の子どもや若者1,500人以上がメンバーとなって活動しています。

●事業活動・内容

- ・日本
国内外の社会課題を伝えたり、リーダーシップトレーニングを行うワークショップ
熊本地震の被災児童を対象とした支援事業
政府に対する「開発援助としての基礎教育拡充」を進めるための政策提言活動(他団体との連携)
- ・フィリピン
国立盲学校の寮修繕事業および点字プリンター設置事業
先住民族の子どもへの教育支援、性的虐待や路上から救出された子どもへの教育自立支援
ミンダナオ島マラウイ市紛争避難民への緊急復興支援
- ・インド
路上や児童労働から救出された子どもへの教育自立支援
西ベンガル州の貧困農村地域の若者および女性自立支援
ラジャスタン州の貧困農村地域での教育および収入支援
- ・ケニア
マサイ族の母親の収入確保につながるフェアトレード商品の輸入、支援事業



女性への自立支援事業としてヤギを提供し、研修している様子

●2017年度の活動

ケニア深井戸建設及び給水システム確立プロジェクト

- 活動地域
ケニア ナロック群南ナロック県
- 助成期間(年) **1**

ケニアは国土の8割以上が乾燥・半乾燥地帯のため、乾季に水不足に陥ったり安全な水へのアクセスが難しい地域が多くあります。特に、事業地の村には、2016年時点で給水システムがないため村人、特に女性や子どもは1日何時間も費やし約15キロ離れた川まで水汲みに行かざるを得ませんでした。そこで、1,200人の村人がきれいな水を手に入れられるよう、地下300メートルから水を汲み上げるシステムと水タンクおよび給水所を村内の小中学校敷地内に設置しました。また、村人によって持続的に給水システムを運営管理できるよう、水管理委員会と給水所運営チームを組織し、村人から15人の水管理委員と5人の給水担当者を選出して、人材育成、研修を行いました。安全な水を学校で手に入れられることになり、村人の水汲みの時間の短縮と健康が改善され生活の質が向上しました。



地下水くみ上げ工事が成功し、喜ぶ村人たち



水管理委員会の村人たちに聞き取り調査をする様子

- 活動回数 / 125回
- 活動参加人数 / 85人
- 設備 / 水汲み上げジェネレーターハウス1基、
貯水タワー1基、給水所1箇所
- 衛生教育 / 500人
- 対象者数 / 1,218人

現地の声

(水管理委員の声)

・きれいで安全な水を手に入れるにはとてつもないお金がかかるので村人だけではどうしようもなかった。貯水タワーや給水所を設置してもらい、村人でメンテナンスができるよう研修を受けたことで、これからは自分たちで自分たちの村について考え、解決していけるようになってとても嬉しいです。

・今まで水汲みの負担が大変で他の仕事ができない女性が多かったが、小学校に給水所ができたことで、子どもを学校に送るときに水汲みができるようになった。家の近くなので別の仕事に時間を使えるようになった。きれいな水が手に入るようになり健康面でも改善されてとてもありがたいです。

モザンビークのいのちをつなぐ会

〔活動国・地域〕 モザンビーク共和国 〔代表者〕 榎本 恵

海外

〔プロフィール〕

モザンビークの貧困エリアで、人々が生き抜くために必要な「知識と知恵」を日本との協力によって注ぎ、一人ひとりが自らの力で問題を解決できるようにサポートしています。教育、環境、健康と食等のQOLの改善に努め、ひいては同じ世界に生きる人々の生命の尊厳の向上に貢献します。

●事業活動・内容

- ・教育活動：スラムの学び舎・寺子屋の施設整備と教育活動
- ・水と公衆衛生活動：ペンバ青年美化活動、農村地区での水環境設備トレーニング
- ・有機農業活動：クイサンガ地区での有機農業、灌漑ダムの建設
- ・食活動：食べられる緑化・モリンガの育成移植、ボン菓子の製造
- ・国際交流活動：アフリカ・マコンデ族の音楽と文化交流ツアー



ペンバ青年美化隊のメンバー

●2017年度の活動

モザンビーク・ペンバにおける公衆衛生プロジェクト

- 活動地域
モザンビーク共和国 カーボデルガド州
ペンバ ナティティ地区
- 助成期間(年) **1** **2** **3**

モザンビーク共和国カーボデルガド州ペンバでは、慢性的な水不足および公衆衛生知識の欠如などにより、コレラや細菌感染症による死者が発生し、5歳未満の死亡率は18%にのぼっています。そこで、当会が建設したスラムの学舎・寺小屋で、主に子どもを対象とした公衆衛生教育を実施しました。加えて住民の水へのアクセス率を高めるために、寺小屋および事務局の給水・浄水設備の整備、浄水器の製作、配布を行いました。これらの活動により、衛生的な暮らしの習慣づけと安全な水の確保が可能となりました。

- 活動回数／8回
- 活動参加人数／242人
- 設備／水タンク1箇所、簡易浄水器4基、地下水タンク修理1箇所
- 衛生教育／242人

現地の声

- ・石鹸や歯ブラシや歯磨き粉を初めて使いました。いいにおいがする。きれいになったとの声が多かったです。
- ・爪切りと洗剤に関しては、初めてみたという声が多かったです。
- ・トイレ用殺菌洗剤に関して、大人から、トイレは異臭がするし虫があがってくるので助かります。
- ・透明なきれいな水を買わないで飲めるのはうれしいです。
- ・寺小屋に水がないとみんな困るので、修理してよかったです。



お皿の洗い方教室



歯磨きする子どもたち

水と地球の、あしたのために。

私たちTOTOグループは、水まわりから環境に貢献するために、「グローバル環境ビジョン」を掲げ、節水や省エネなどさまざまな取り組みを続けています。環境にやさしいものづくりを行い、きれいで快適な暮らしを世界に届け、人とのつながりを大切に活動してまいります。水と地球の、あしたのために。これからも、持続可能な社会を目指して、TOTOグループ全員の力で、実現していきます。



あしたを、ちがう「まいにち」に。
TOTO

